

# 2030ケーブルビジョン

2025年6月

版数	発行時	主な更新箇所
第1版	2021年6月	初版発行
第2版	2023年6月	3章テクノロジーロードマップ、6章2030年に向けたアクションプラン、7章2030ケーブルビジョンの実現に向けて業界が変わる！
第3版	2025年6月	3章テクノロジーロードマップ、4章2030年に向けた事業環境の見通し、6章2030年に向けたアクションプラン、7章2030ケーブルビジョンの実現に向けて業界が変わる！

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

R3 20210630

# 目次

1	2030ケーブルビジョン策定にあたって	P2
2	2030年の社会	P3
	社会が変わる	P3
	生活が変わる	P4
	テクノロジーが変わる	P5
3	今後のトレンド	P6
	放送ビジネス	P7
	通信ビジネス	P8
	地域コンテンツ	P9
	新たな事業（地域ビジネス）	P10
	テクノロジーロードマップ	P11
4	2030年に向けた事業環境の見通し～何もしなければ待ち受けるシナリオ～	P17
5	2030年のケーブルテレビが担うべきミッションと目指すべき姿	P21
6	2030年に向けたアクションプラン	P22
6-1	放送が変わる	P24
6-2	コンテンツが変わる	P27
6-3	ネットワークが変わる	P30
6-4	ワイヤレスが変わる	P33
6-5	IDで変わる	P36
6-6	サービス・ビジネスが変わる	P39
7	2030ケーブルビジョンの実現に向けて業界が変わる！	P42
8	2030年への飛翔	P44
	各セグメントのアプローチ	P44
	CATVが目指す社会像	P46
	飛翔のシナリオ	P55

## ◆ 我が国が直面している状況

- 少子高齢化の更なる進展（2030年には総人口の約3分の1が65歳以上に）
- ファミリー層が縮小、単独世帯が主に
- グローバル経済における日本の地位低下
- 人口減少の進展（空き家の増加、世帯の減少、百貨店、銀行も老人ホームも消える？）
- Society 5.0実現に向けた取組が進展（スマートシティ、テレワーク、MaaSの高度化など）
- 移動しない、接触しない「新たな日常」
  - ✓ テレワーク、ワーケーションなど新しい働き方の普及 ⇒ Society 5.0、DX関連の取組が加速
  - ✓ ライフスタイルも変化（仕事からプライベートへ、都市から地方へ）
- 政府においてもデジタル化に向けた取組が本格化（オンライン診療や教育の規制緩和、GIGAスクール構想の前倒し、社会全体のデジタル化、マイナンバーカードの更なる活用、国・地方の行政システムの見直し）

## ◆ ケーブルテレビ事業者として

- ✓ 地域視点を踏まえた、持続可能な地域づくり（SDGsへの取り組み）へ貢献していくことが重要
- ✓ 地域社会や住民のために、地域で役に立ち続ける企業であるためにどうすべきか
- ✓ 「移動しなくていい社会」は大きなチャンス

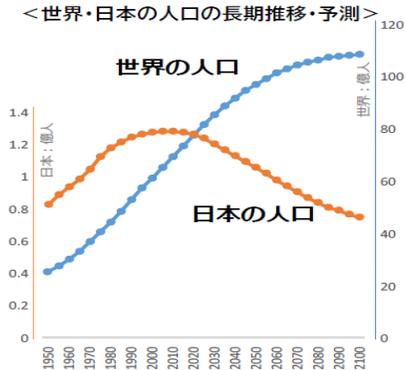
**ケーブルテレビの持続可能な成長と更なる発展に向けて、  
「2030年のケーブルテレビの在り方」を考えるべきではないか**

## 2. 2030年の社会

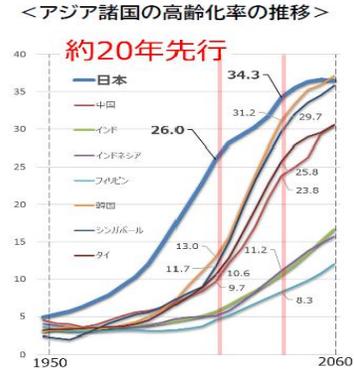
### 社会が変わる

- 少子高齢化の更なる進展、人口減少、空き家の増加（世帯数の減少）
- 東京一極集中が緩和され、地方移住が進展
- 身近な生活圈・地域への思い・域外との係りなど、地域や地方への関心・注目・応援志向は高まる傾向!! 交流人口や関係人口の創出が大事に!!

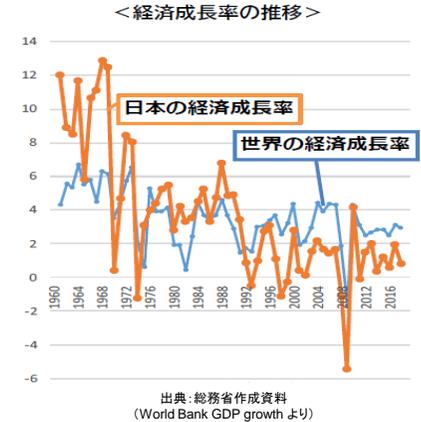
### 急速な人口減少



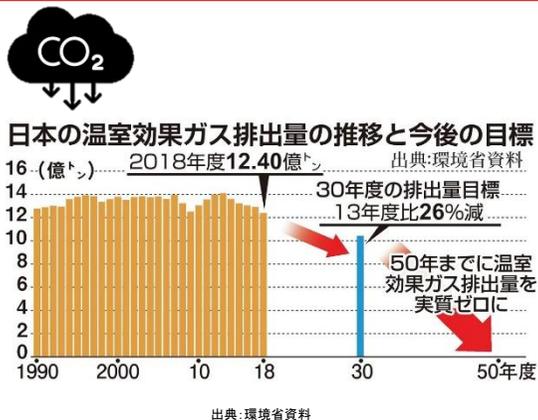
### 未知の高齢化



### 長引く低成長



### 低炭素社会

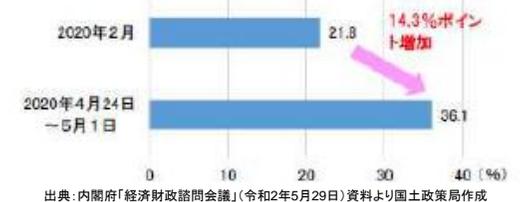


### 暮らしの変化



### 東京一極集中緩和 ⇒地域や地方への意識変化

20代のU・Iターンや地方での転職希望増



- ✓ 地方との関わり方の多様化  
移住～観光～他地域での消費など
- ✓ 身近な生活圈・地域への  
応援志向の高まり

## 2. 2030年の社会

### 生活が変わる

- 感染症の拡大をきっかけとした社会全体のデジタル化が進展。
- 役所に行かずにあらゆる行政手続きが可能に（マイナンバーの活用が進展）
- 場所にとらわれない働き方、教育が実現

### 新たな生活様式



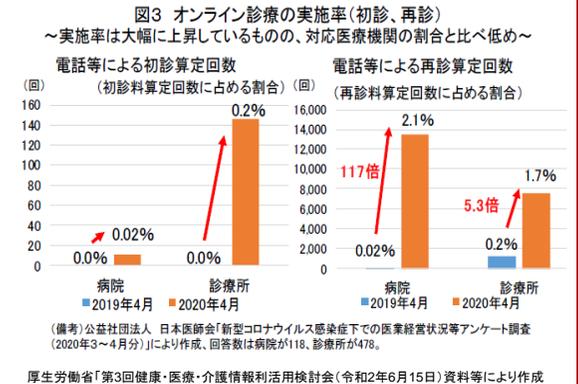
出典：厚生労働省資料

### 行政手続きのデジタル化

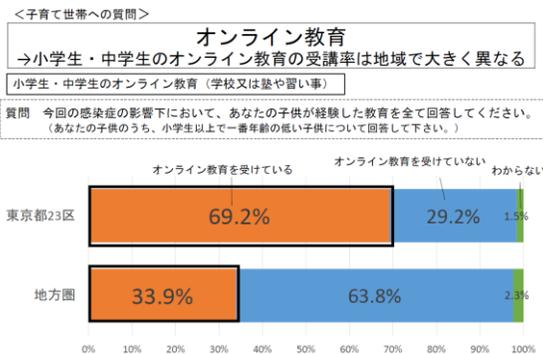


出典：Softbankメニューリスト—公式サイト&アプリ紹介—

### 医療のデジタル化



### 教育のデジタル化



出典：内閣府 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（インターネット調査、調査期間 令和2年5月～6月、回収数 10,128）令和2年6月26日 第10回 選択する未来2.0配布資料

### 未来シナリオは前倒し



出典：東京工業大学 未来社会DESIGN機構 HP

### コロナ後の生活者傾向



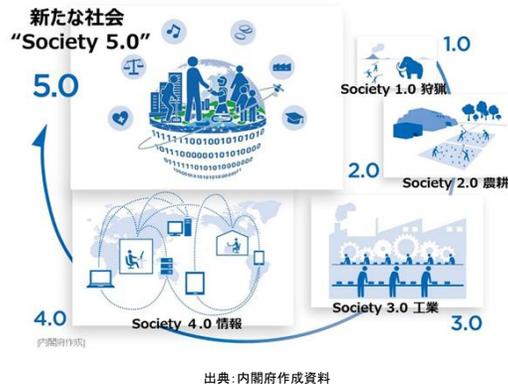
2030ケーブルビジョン検討会「2030年を見据えた生活者インサイトの変化に関して」電通 渡川様資料より作成

## 2. 2030年の社会

### テクノロジーが変わる

- 物理空間とサイバー空間が高度に融合する「Society 5.0」が進展
- 5G・IOTが普及、放送のオールIP化、スマートシティの取り組みが拡大、電気自動車や自動運転が普及場所にとられない働き方、教育が実現

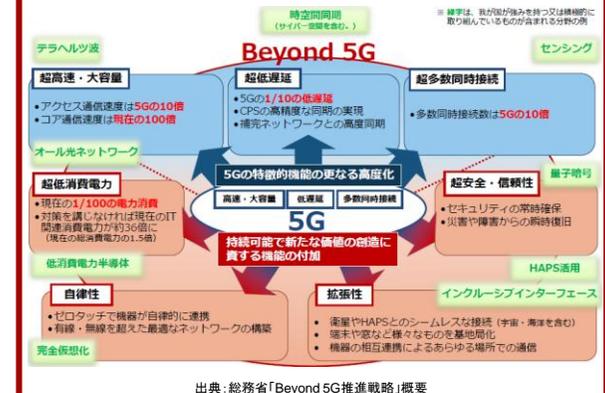
### 「Society 5.0」が進展



### AI、ロボティクス



### Beyond 5G, 6G



### DX

サービスを、安価に、迅速に、安全に、持続的に、多様な形態で、柔軟に、機動性を持って実現させる技術



2030ケーブルビジョン検討会「ケーブルTVの技術展望」日本ケーブルラボ松本様資料より

### 高齢者向けイノベーション

高機能なのに簡単

優しい  
コンテンツ



直観的な  
UI/UX



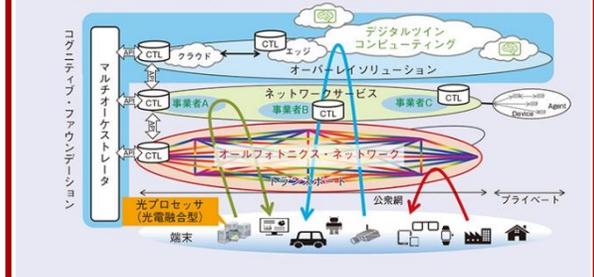
簡単設置  
デバイス



2030ケーブルビジョン検討会「ケーブルTVの技術展望」日本ケーブルラボ松本様資料より

### IOWN

オールフォトリクス・ネットワーク、デジタルツインコンピューティング、コグニティブ・ファウンデーションの3つの要素でスマートな社会を実現していく



# 3. 今後のトレンド

	ほぼ確実に起こること	想定されるシナリオ
2030年の放送市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ OTT配信事業の拡大、生活者のネット視聴シフトの加速               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ NHKは、「NHK+」など配信による視聴者リーチに注力</li> <li>⇒ 民放は、広告事業モデルを「放送+配信市場」に拡大</li> <li>⇒ 多チャンネル放送事業者も、OTT対応を加速</li> </ul> </li> <li>▶ ケーブル事業における「放送ビジネス」の相対的な価値低下               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 区域外再放送の訴求力が徐々に低下</li> <li>⇒ 多チャンネルサービスの価値づくりが急務</li> </ul> </li> <li>▶ 度重なる大規模災害対応に関して、地域防災力向上が急務               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 映像やデータ情報の共有など、地域メディア連携の実現</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県域放送、地域メディアの再定義</li> <li>▶ 主要各地で、様々な形態の共通配信PFが登場               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 放送ビジネスに係る構造変化に、ケーブル業界もしなやかに対応</li> <li>⇒ ICTの強みをもつケーブルテレビ業界とNHK地方局や民放ローカル局との同時配信も含めた協業等</li> </ul> </li> <li>▶ 安価なデバイス(ドングルなど)の提供</li> <li>▶ 地上放送の高度化(4K化)対応</li> </ul>
2030年の通信市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 有線・無線市場の融合、コモディティ化の加速、セット販売の加速</li> <li>▶ 地域BWAの5G NR化の進展</li> <li>▶ 移動体市場の競争激化</li> <li>▶ 有線・無線の通信トラフィックの激増</li> <li>▶ 安全・安心なネットワーク環境に対する需要拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ サイバーセキュリティ対応の深化</li> </ul> </li> <li>▶ ウェアラブル端末やIoTの本格的な普及</li> <li>▶ 次世代のモバイル通信システム「Beyond 5G/6G」の実現               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ テラヘルツ波の活用、衛星等を利用したカバレッジ拡張など</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基地局シェアリングの進展</li> <li>▶ 回線貸しビジネスの進展</li> <li>▶ 低消費電力サービスの拡張</li> <li>▶ MECの整備</li> <li>▶ 地域BWAによる音声サービスの提供</li> </ul>
2030年の地域コンテンツ市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ネットによるすき間時間の消費、共有系カジュアル動画視聴拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ ユビキタス～いつでもどこでも《ケ》</li> </ul> </li> <li>▶ 一方で、メディア(媒体)からリアルへのコンバージェンス               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 反ユビキタス～今だけこだけ《ハレ》※リアルイベント等の価値</li> </ul> </li> <li>▶ メディアを含むあらゆる企業が最適な顧客接点を模索               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 従来メディア×ネット導線確保×リアル接点の価値創造</li> <li>⇒ 用途に応じた、映像等情報の最適配置</li> </ul> </li> <li>▶ 地方との関わり方が多様化、身近な生活圏・地域への応援志向の高まり               <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 加入者以外、エリア外に向けた情報発信、関係人口や交流人口の創出に寄与</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地方民放の体制変更等による地域放送の再価値化、FASTをはじめ新たな配信手法、コンテンツビジネス手法の多様化で、地域コンテンツそのもののバリューが高まることが想定される</li> <li>▶ 生成AI技術を活用した放送制作及び業務フローの高度化が一層進展するとともに、XR等オンライン空間でのコンテンツ利用の拡大や、AI活用コンテンツによるユーザーエンゲージメントやUXの向上も期待される</li> </ul>
2030年の新たな事業(地域ビジネス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 人口減少、世帯減少に伴う、加入者の減少は自明であり、業界のBtoCビジネスの構造上、直接的な影響は必至</li> <li>▶ 地域力向上、魅力創造など地域間競争の激化</li> <li>▶ 地域のマーケットをいかに維持するかが至上命題へ</li> <li>▶ 持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》の重要性UP</li> <li>▶ 地域DXが一気に進む</li> <li>▶ TVやスマートフォンなどを用いた遠隔医療等の普及</li> <li>▶ IT人材のさらなる不足</li> <li>▶ 民放ローカル局は、生き残りをかけて地域ビジネスに注力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マイナンバー等を活用したコスト効率の高い官民一体型ビジネスが進展</li> <li>▶ 交通・電気・水道・ガスなど社会インフラでのデジタル技術活用</li> <li>▶ 居住と就労の分離の加速</li> <li>▶ 実証を終えたスマートシティの定着と拡張</li> <li>▶ 分野横断型スーパーシティの実現</li> </ul>

## ほぼ確実に起こること

- OTT配信事業の拡大、生活者のネット視聴シフトの加速  
⇒ NHKは、「NHK+」など配信による視聴者リーチに注力  
⇒ 民放は、広告事業モデルを「放送+配信市場」に拡大  
⇒ 多チャンネル放送事業者も、OTT対応を加速
- ケーブル事業における「放送ビジネス」の相対的な価値低下  
⇒ 区域外再放送の訴求力が徐々に低下  
⇒ 多チャンネルサービスの価値づくりが急務
- 度重なる大規模災害対応に関して、地域防災力向上が急務  
⇒ 映像やデータ情報の共有など、地域メディア連携の実現

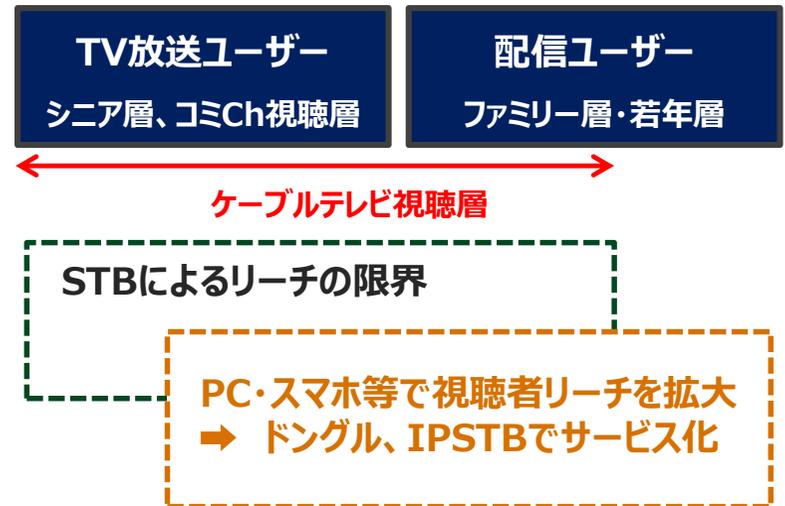
## 想定されるシナリオ

- 県域放送、地域メディアの再定義
- 主要各地で、様々な形態の共通配信PFが登場  
⇒ 放送ビジネスに係る構造変化に、ケーブル業界もしなやかに対応  
⇒ ICTの強みをもつケーブルテレビ業界とNHK地方局や民放ローカル局との同時配信も含めた協業等
- 安価なデバイス( dongle など)の提供

## 放送・配信のビジネスモデル多層化



## 視聴者リーチ拡大の方向性



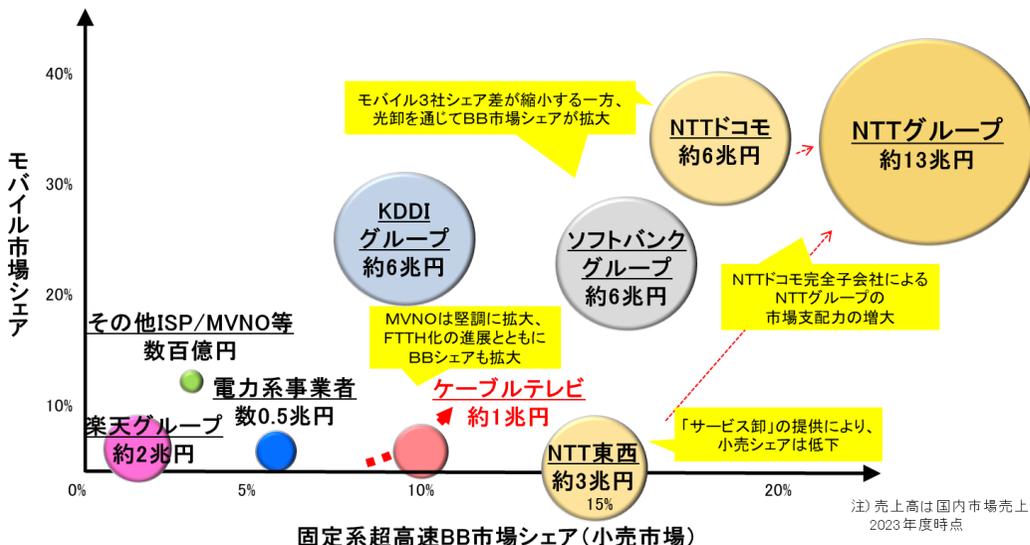
## ほぼ確実に起こること

- 有線・無線市場の融合、コモディティ化の加速、セット販売の加速
- 地域BWAの5G NR化の進展
- 移動体市場の競争激化
- 有線・無線の通信トラフィックの激増
- 安全・安心なネットワーク環境に対する需要拡大  
⇒ サイバーセキュリティ対応の深化
- ウェアラブル端末やIoTの本格的な普及
- 次世代のモバイル通信システム「Beyond 5G/6G」の実現  
⇒ テラヘルツ波の活用、衛星等を利用したカバレッジ拡張など

## 想定されるシナリオ

- 基地局シェアリングの進展
- 回線貸しビジネスの進展
- 低消費電力サービスの拡張
- MECの整備
- 地域BWAによる音声サービスの提供

## 有線・無線融合市場における事業者規模



## 全国MNO vs 地域MNO

帯域	全国MNO				地域MNO
	DCM	au	SB	楽天M	
無線	400MHz	400MHz	400MHz	400MHz	900MHz L5G
無線	200MHz	200MHz	200MHz	100MHz	300MHz L5G
無線	—	50MHz	30MHz	—	20MHz 地域BWA
無線	80MHz	40MHz	80MHz	—	MVNO (卸)
無線	110MHz	140MHz ※	90MHz	40MHz	シームレスな接続
無線	50MHz	50MHz	50MHz	ローミング 3MHz×2	FTTH (卸)
有線	FTTH (卸)	FTTH (自前/接続)	FTTH (卸)	FTTH (卸)	FTTH (自前/卸)

- ✓ 地域MNOは、ハイバンド及びミッドバンドの主要帯域をおさえ、それぞれの特性を活かしながら面的に展開することで、オフロードと独自のサービス戦略により経済合理性を高めることで、**全国MNOと競争することが可能**。
- ✓ ローカル 5G帯域は大容量・低遅延の通信、地域BWAは一定の容量とカバレッジを実現し、サービスの利便性及び経済合理性を高めることが可能。**地域MNOの競争力向上、サービス・事業の継続性・成長性を確保**することから、地域MNO実現の上では、これらの主要帯域をおさえることが重要。

### 3. 今後のトレンド

### 地域コンテンツ

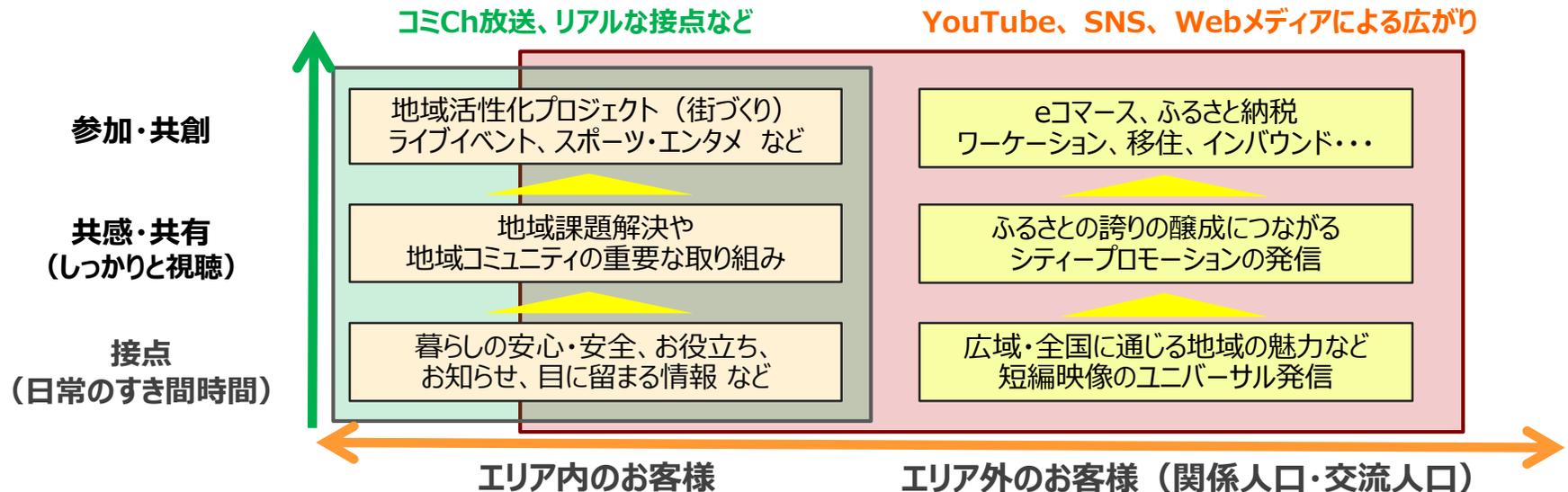
#### ほぼ確実に起こること

- ネットによるすき間時間の消費、共有系カジュアル動画視聴拡大  
⇒ ユビキタス ~ いつでもどこでも 《ケ》
- 一方で、メディア（媒体）からリアルへのコンバージェンス  
⇒ 反ユビキタス ~ 今だけこだけ 《ハレ》 ※リアルイベント等の価値
- メディアを含むあらゆる企業が最適な顧客接点を模索  
⇒ 従来メディア × ネット導線確保 × リアル接点の価値創造  
⇒ 用途に応じた、映像等情報の最適配置
- 地方との関わり方が多様化  
身近な生活圏・地域への応援志向の高まり  
⇒ 加入者以外、エリア外のお客様に向けた情報発信  
関係人口や交流人口の創出に寄与

#### 想定されるシナリオ

- 地方民放の体制変更等による地域放送の再価値化、FASTはじめ新たな配信手法、コンテンツビジネス手法の多様化で、地域コンテンツそのもののバリューが高まることが想定される
- 生成AI技術を活用した放送制作及び業務フローの高度化が一層進展するとともに、XR等オンライン空間でのコンテンツ利用の拡大や、AI活用コンテンツによるユーザーエンゲージメントやUXの向上も期待される

#### 地域コンテンツの取組みの方向性



#### ほぼ確実に起こること

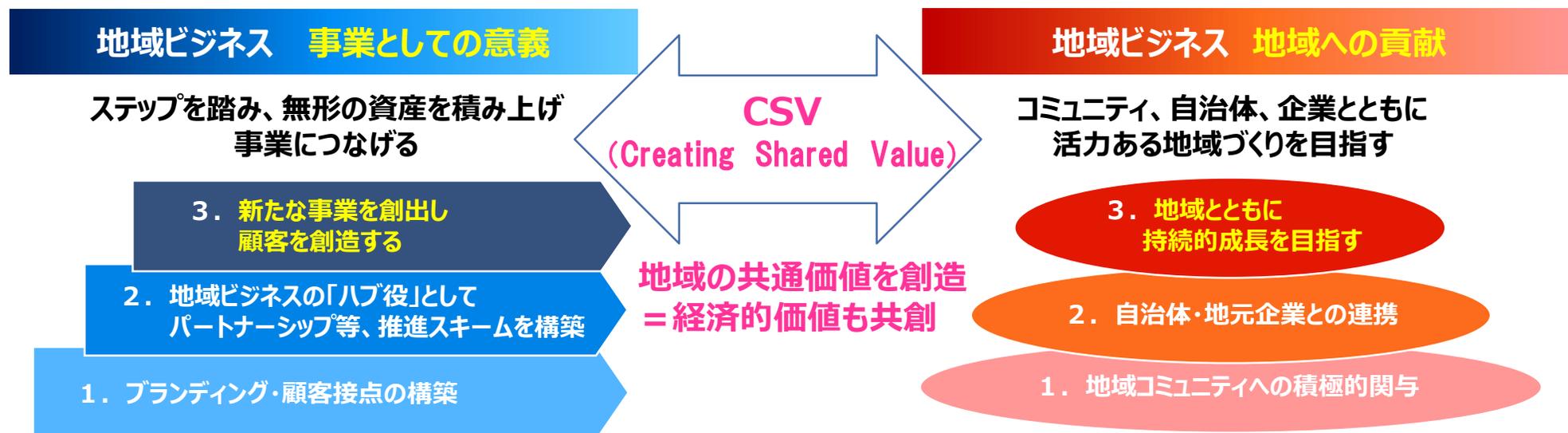
- 人口減少、世帯減少に伴う、加入者の減少は自明であり、業界のBtoCビジネスの構造上、直接的な影響は必至
- 地域力向上、魅力創造など地域間競争の激化
- 地域のマーケットをいかに維持するかが至上命題へ
- 持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》の重要性UP
- 地域DXが一気に進む
- TVやスマートフォンなどを用いた遠隔医療等の普及
- IT人材のさらなる不足
- 民放ローカル局は、生き残りをかけて地域ビジネスに注力

#### 想定されるシナリオ

- マイナンバー等を活用したコスト効率の高い官民一体型ビジネスが進展
- 交通・電気・水道・ガスなど社会インフラでのデジタル技術活用
- 居住と就労の分離の加速
- スマートシティの普及拡大
- 分野横断型スーパーシティの実現

### 地域ビジネスの取組みの方向性

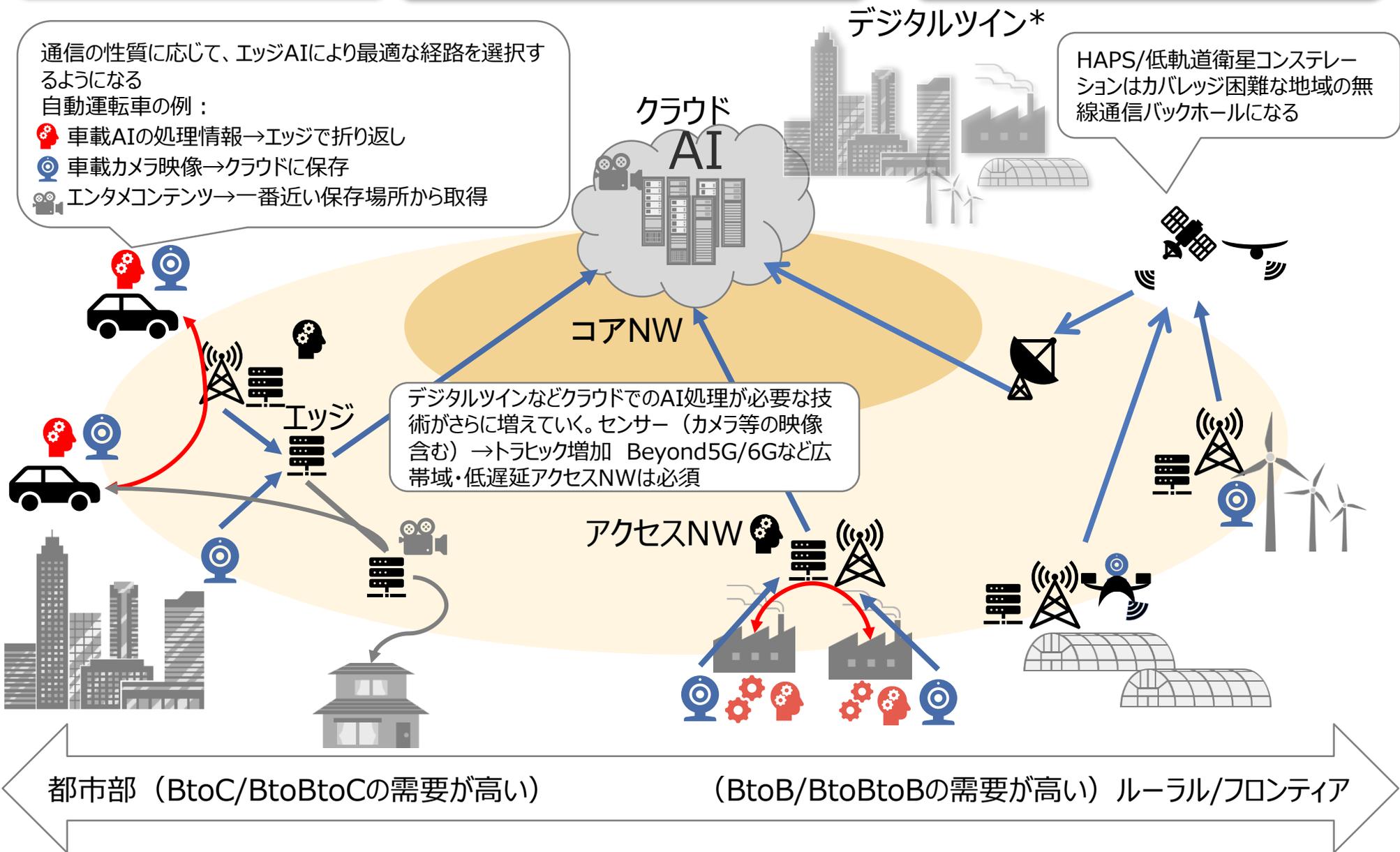
CSR社会貢献ではなく、CSVの姿勢で臨む



### 3. 今後のトレンド

### テクノロジーロードマップ

### 2030年頃のイメージ



\*デジタル・ツイン：現実空間の情報をセンサー/映像などを活用して、リアルタイムでサイバー空間に送り、サイバー空間内に現実空間の環境を再現する技術

\*テクノロジーの効果を取り込んだ場合を想定

レイヤー	技術領域	2027年ごろの状況	ケーブルテレビ業界への裨益* (2030年頃)
放送	IP化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模放送事業者の制作現場ほぼIP化</li> <li>米国でATSC3.0<sup>*1</sup>による放送が本格化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放送機材共用の進展によるコスト低減</li> </ul>
	コーデック	<ul style="list-style-type: none"> <li>H.266 VVC対応エンコーダがエンタメ業界に普及</li> <li>高速処理等の実現によりMPEG-PCC<sup>*2</sup>(3D)がゲーム,VRに普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高解像度映像コンテンツの配信コスト低減、4K/8Kコンテンツ制作・配信の活性化</li> </ul>
移動通信システム	帯域拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹網周辺の有線ネットワークを補完するテラヘルツ通信の社会実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における大容量無線通信のアクセスを提供するビジネスチャンスの拡大</li> </ul>
	非地上系ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>Starlink<sup>*4</sup>が世界の大部分でサービスを提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでカバレッジが困難（技術的・コスト的）だった地域へのバックボーン回線の選択肢の増加</li> </ul>
	LPWA	<ul style="list-style-type: none"> <li>NR-Light<sup>*7</sup>の規格化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスト的に実現困難だった地域・分野におけるソリューションの提供によるビジネスチャンスの拡大</li> </ul>
ネットワーク	光	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ当たり10Gbps程度の大容量化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>増加する地域のトラフィックの需要に耐えうる大容量な通信インフラの提供によるビジネスチャンスの拡大</li> </ul>
	ネットワークスライシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルール（ポリシー）ベースのネットワークスライシングが実現し、ユーザの需要も拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のトラフィックが増加し、ケーブルテレビ事業者のインフラ需要が拡大。</li> <li>動的なスライシングが実現し、ネットワークレイヤーでの付加価値創出によるビジネスチャンス拡大</li> <li>ネットワーク運用の自動化による効率化</li> </ul>
	データセントリック技術 <sup>*10</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（仕様が策定された段階）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「近いデータを取得する」ため地域のトラフィックが増加し、ケーブルテレビ事業者のインフラの需要が増加</li> </ul>
サーバ	エッジコンピューティング/AI	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルチアクセスエッジコンピューティング(MEC)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高度なAI技術が開発され、さらにデータ処理や分析分野に活用</li> <li>高速でリアルタイムなデータ処理が可能となり、各種自動化が促進</li> </ul>
AI/ビッグデータ	現実の拡張技術/感覚の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>XR<sup>*17</sup>技術等によるメタバースが企業向けソリューションとして市場を形成</li> <li>生成AI<sup>*18</sup>、LLM（大規模言語モデル）<sup>*19</sup>の浸透</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>XR技術（デジタル・ツインも含む）を利用したメタバースソリューションの提供によるBtoBtoX事業のビジネスチャンス拡大 例)バーチャルショッピング、エンタメ、実建物3D、史跡3Dアーカイブ他</li> </ul>
セキュリティ	ネットワーク/AI	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドやエッジ上の仮想環境やネットワークスライシング上でのセキュリティが強固に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>量子鍵配送により鍵を安全に共有され、レベルが向上</li> <li>AI活用に伴う個人情報の漏えいやAIへの攻撃やAIを使った攻撃に対する対策が厳格化</li> </ul>

- 放送ではATSC 3.0による伝送のIP化、移動通信システムでは大容量化とカバレッジ拡張が進展。
- ネットワークレイヤーでは大容量化に加え、仮想化、スライシング、エッジAI等により「ネットワークでデータ処理」、「自動で経路変更」などNWの機能が高度化。
- 上記の背景には、大容量・超低遅延を必要とするAI/ビッグデータ関係技術の進展が存在。\*がついている用語の説明は次ページ

レイヤー	技術領域		2020年	2030年	2040年
放送	IP化	制作	SMPTE ST 2110*3		
		伝送	ATSC 3.0		
	コーデック		H.266 VVC、MPEG-PCC*2	H.267 ?	
移動通信システム	帯域拡張		ミリ波通信	テラヘルツ通信 Beyond5G/6G 100Gbps	可視光通信
	非地上系ネットワーク		HAPS/低軌道衛星コンステレーション		
	LPWA		LTE-M*5/NB-IoT*6	NR-Light*7	
ネットワーク	光	信号多重	波長多重技術 (シングルコアファイバ)		空間多重技術 (マルチコアファイバ/マルチモードファイバ)
		帯域拡張	広帯域技術(C+L帯等)		超広帯域技術(U、S、O、T帯等対応)
		変調			
	CATV網データ通信		DOCSIS 3.1&全二重	DOCSIS 3.1 1.8GHz	DOCSIS 4.0
	量子通信			量子暗号通信 量子鍵配送(QKD)*9	量子セキュリティネットワーク
	ディスアグリゲーション		フォトニックディスアグリゲータッドコンピューティング*10		
	ネットワークスライシング		ネットワーク仮想化	スライシング(ポリシーベース)	スライシング(AIベース)
データセントリック技術*11			hybrid ICN*12	ICN/CCN*13	
サーバ	エッジコンピューティング/AI		MEC(地域IX/CDN)	エッジAI・脳融合型AI*14	ゼロタッチオペレーション*15 サーバレスアーキテクチャ*16.
	量子コンピュータ			量子アニーリング方式*18	量子ゲート方式*19
AI/ ビッグデータ	AI			生成AI*20、大規模言語モデル(LLM)*21、エージェントAI、フィジカルAI	汎用AI*22
	現実の拡張技術/感覚の共有		メタバース(XR等)	デジタルツイン、感覚伝送・テレプレゼンス*23	
セキュリティ	NWセキュリティ		仮想化対策	クリプトアジリティ*24 耐量子暗号(PQC)*25	ゼロタッチオペレーション・物理層セキュリティ*26
	AIセキュリティ		AIを使った攻撃への対策	AIへの攻撃対策*27	AIセーフティ*28

## 放送

- \* 1 ATSC3.0 : 米国Advanced Television Systems Committeeが定めた次世代放送の規格。4K、HDR、IPベースの配信による双方向性などが特徴
- \* 2 MPEG-PCC : Moving Picture Experts Group - Point Cloud Compressionの略で、三次元(3D)ポイントクラウドデータの圧縮規格
- \* 3 SMPTE ST 2110 : SMPTE (Society of Motion Picture and Television Engineers) が定めた、同期を維持しながら音声、映像、その他データを含むストリームを分割し、それぞれが別々にルーティングされ、エンドポイントで再び集約可能とする特徴を持つ規格

## 移動通信システム

- \* 4 Starlink : 米国Space X社が提供する低軌道衛星コンステレーション通信サービス
- \* 5 LTE-M : Long Term Evolution for machine-type-communicationの略であり、既存のLTE回線を活用して省電力・広域で上下最大1Mbpsの通信を可能とする通信規格
- \* 6 NB-IoT : Narrow Band IoTの略であり、LTE回線を活用して省電力・広域で最大上り63kbps/下り27kbpsの通信を可能とする通信規格
- \* 7 NR-Light : 3GPP Release 17で規格化が予定されている、5Gと比較してエネルギー消費量、コストが低い通信規格。現在のLPWA通信よりも広帯域な通信が可能で、例えば画像の送受信を行い、かつ遅延時間も抑えたいといったケースにも対応予定

## ネットワーク

- \* 8 デジタルコヒーレント多値変調技術 : 光の強度だけでなく波としての性質を利用する光デジタルコヒーレント方式において、1シンボルで表せる値を多くする技術
- \* 9 量子鍵配送(QKD) : 光伝送路上で、量子技術を活用し鍵を安全に共有する技術
- \* 10 フォトニックディスアグリゲータッドコンピューティング : メモリやAI演算デバイス等のモジュールそれぞれに光のデータI/O (入出力) を持たせ、大容量で高速な光データネットワークにつなげることで、柔軟性の高いコンピューティングインフラを実現する技術
- \* 11 データセントリック技術 : IPアドレスではなくコンテンツ名を使用して通信を行うネットワーク技術の総称
- \* 12 hybrid ICN : ICN の機能をIPv6に実装する技術。IPヘッダに欲しいデータ/コンテンツ名を埋め込むことにより、ICNをIP Networkと共存可能にしたもの
- \* 13 ICN/CCN : Information-Centric Network/Content -Centric Networkの略であり、求める情報の場所ではなく、欲しいデータ/コンテンツの名前を指定してネットワークから取得する通信技術

## サーバ

- \*14 脳融合型AI：人間の脳の仕組みを模擬・再現させることでAIを高度化させる技術
- \*15 ゼロタッチオペレーション：ネットワークの故障や品質劣化等の発生検出からその対処完了までを全自動化すること。この資料では故障や品質劣化に加え、最適化も全自動化する意味を含む
- \*16 サーバレスアーキテクチャ：アプリケーションを実行するためのサーバを自動的にプロビジョニングする技術

## AI/ビッグデータ

- \*17 XR技術：xRealityの略。VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、MR（複合現実）などの技術の総称
- \*18 量子アニーリング方式：量子コンピュータの方式の一つであり、組み合わせ最適化問題の解決に特化した方式。実用化されつつあるものの、汎用的な問題は解けない
- \*19 量子ゲート方式：量子コンピュータの方式の一つであり、汎用的に様々な問題の解決が可能な方式
- \*20 生成AI：新しいデジタルコンテンツ(テキスト、画像、音声など)を自動生成する技術
- \*21 大規模言語モデル(LLM)：生成AIにおいて自然言語処理タスクを行うために大量のテキストデータで訓練された機械学習モデル。文脈理解やテキスト生成が得意で、チャットボットやコンテンツ作成などに利用される。
- \*22 汎用AI：事前にプログラムされた特定の課題にのみ対応するのではなく、人間と同じように様々な課題を処理可能なAI技術
- \*23 テレプレゼンス：ホログラムやロボットを利用して、遠隔地にあたかも自らが存在しているかのように体験できる技術

## セキュリティ

- \*24 クリプトアジリティ：ITシステムで利用される既存の暗号方式から耐量子暗号(PQC)への移行をシステムインフラやプロセスに大きな変更を加えることなく行うための取り組み。
- \*25 耐量子暗号(PQC)：量子コンピュータが実現されても解読不可能な暗号方式
- \*26 物理層セキュリティ：6Gで想定される衛星ネットワークやナノデバイスなどの極限環境を対象とした高信頼・超軽量ネットワークセキュリティ対策
- \*27 AIへの攻撃対策：AIを誤作動させたり、モデルから個人情報などを抽出するなどの攻撃。ポイズニング攻撃、回避攻撃、モデルインバージョン攻撃など
- \*28 AIセーフティ：人間中心の考え方をもとに、AI活用に伴う社会的リスクを低減させるための安全性・公平性、個人情報の不適正な利用等を防止するためのプライバシー保護、AIシステムの脆弱性等や外部からの攻撃等のリスクに対応するためのセキュリティ確保、システムの検証可能性を確保し適切な情報提供を行うための透明性が保たれた状態

## 1. 地域のデータ流通は量・質ともに増加、ケーブルテレビのインフラも需要増

1. エッジAIやデータセントリック技術（“場所”ではなく“コンテンツ”にアクセスする技術）によりエッジで折り返すトラヒックや、CDNの手前で折り返すトラヒックが増加
2. ネット上のサービスはクラウド上のAI処理が必要となりアクセス網の広帯域・低遅延化も必須
3. 地域に通信網を提供するケーブルテレビの通信インフラに対し需要が増加

## 2. 6G以降でもケーブルテレビは地域の無線アクセス提供の担い手

1. 6GにおいてはHAPS、低軌道衛星等、別領域からカバレッジが拡張
2. 無線通信に使われる周波数は広帯域化し、エリア構築が困難
3. バックホールとしてHAPS、低軌道衛星活用し、地域でこれまでカバレッジが困難（技術的/コスト的）だった地域にアクセスを展開する役割がケーブルテレビに期待される

## 3. ネットワークの最適化技術が進展し、トラヒックデータの量が競争力に直結

1. ネットワークのソフトウェア化（仮想化）、技術開発のオープン化が進展
2. ソフトウェア化によりネットワークの最適化は加速度的に進行するものの、オープン化により最適化技術自体の付加価値は低下
3. 特にBtoB領域においては「最適化技術をいかに活用するか（ネットワークをいかに早く賢くするか）」での勝負になり、ネットワークの規模、トラヒックデータの量が重要に

# 4. 2030年に向けた事業環境の見通し

個社事情と照らし合わせ、事業環境を直視  
～何もしなければ待ち受けるシナリオ～

ケーブルテレビ事業の収益力 = ①顧客基盤 × ②地域経済 × ③競争力

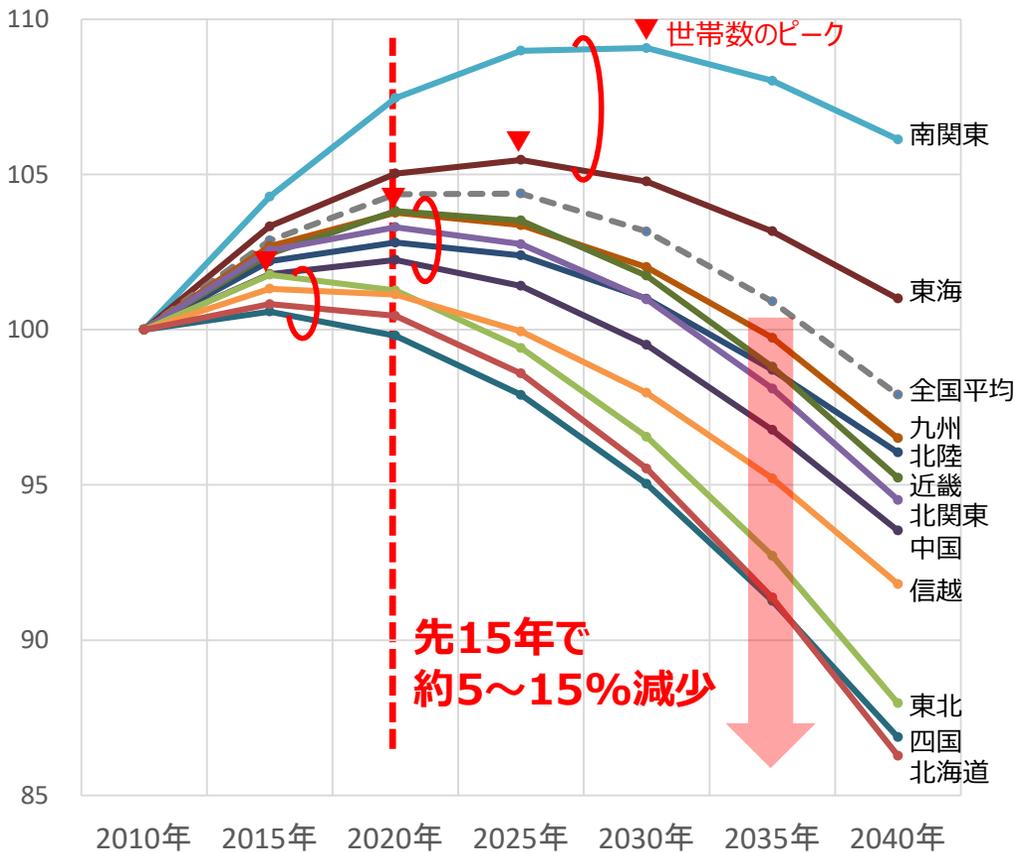
見通し

- ・首都圏郊外含め世帯減少、高齢化等、「自然減」が既に進行
- ・ファミリー層が縮小、より通信支出が低い単独世帯が主に
- ・コロナ禍後の消費水準は不透明

シナリオ

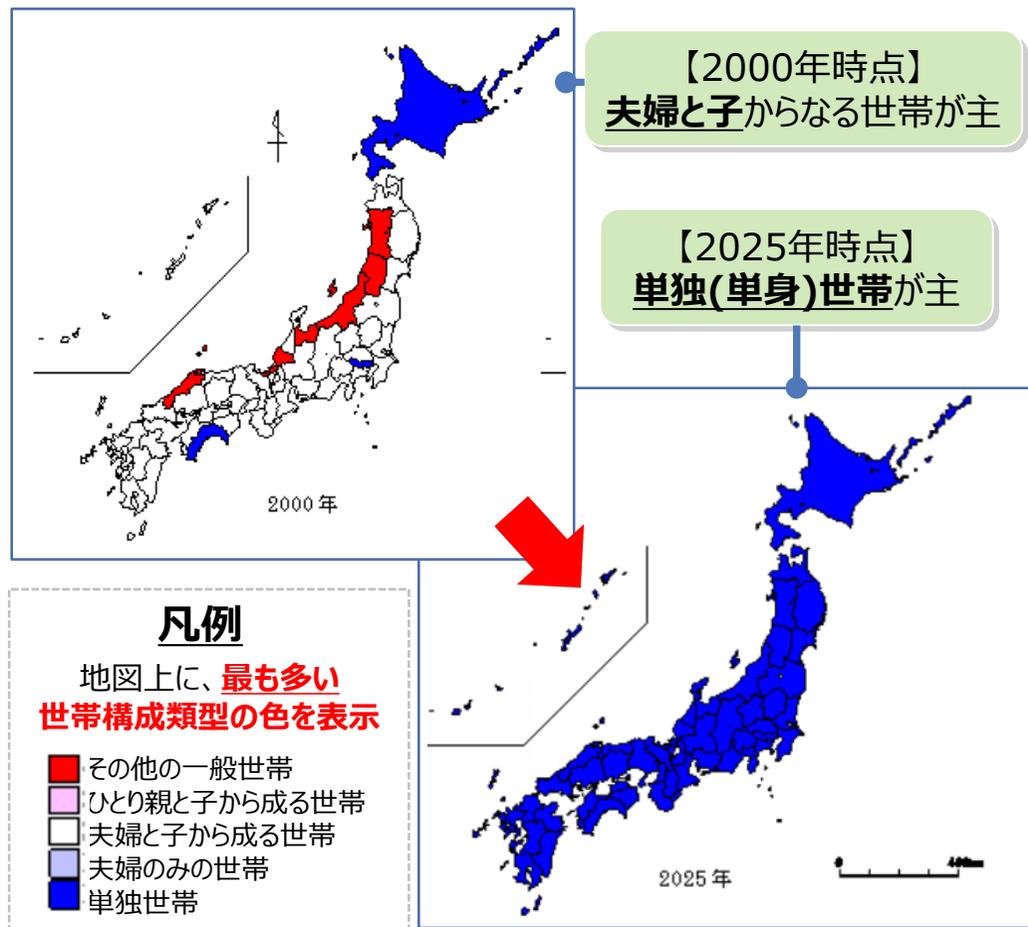
- ・主たる顧客層が縮小し、提供サービスと世帯構成にギャップが生じる
- ・料金感度が高い若年層へ訴求・開拓できず、顧客基盤維持が困難に
- ・総じて、嗜好サービスであるケーブルテレビは要らなくなる

地域別の世帯減少（2010年を100とした場合）



出典：国立社会保障人口問題研究所（2019年推計）

都道府県別の世帯構成類型の変化（2000年⇒2025年）



出典：国立社会保障人口問題研究所（2005年8月推計）※最新の2019年推計値でも傾向は変わらない

# 4. 2030年に向けた事業環境の見通し

個社事情と照らし合わせ、事業環境を直視  
～何もしなければ待ち受けるシナリオ～

ケーブルテレビ事業の収益力 = ①顧客基盤 × ②地域経済 × ③競争力

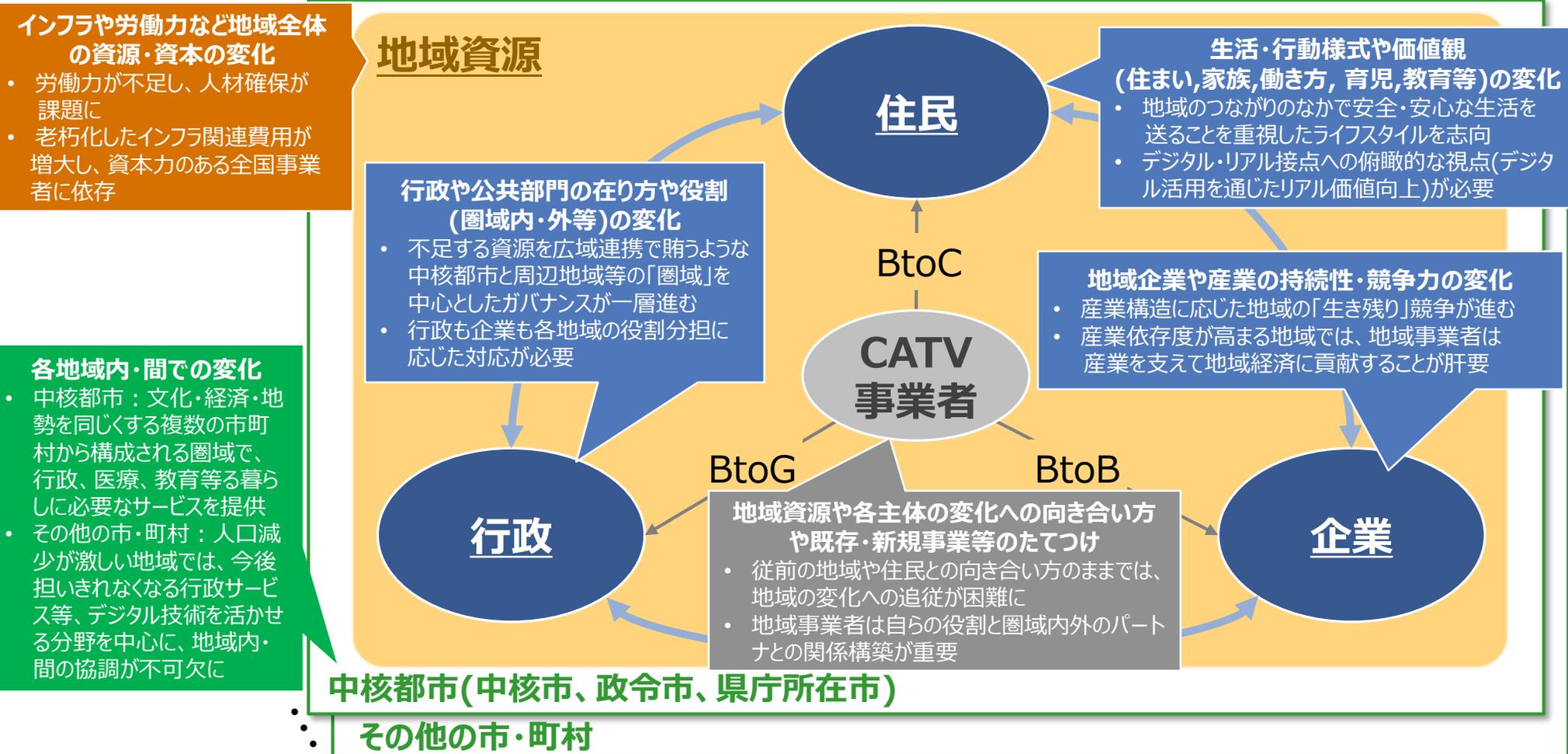
見通し

- ・地域の生き残りをかけた競争が進行中
- ・インフラや労働力（生産性）など地域の経済力が低下
- ・地域資源を活かしきれない地域は持続可能性が課題

シナリオ

- ・地域におけるインフラ競争時代が終焉、全国事業者が支える構図に
- ・地域経済・社会の構成要素の変化へ追従できず、事業改革が進まない
- ・地域の存続・発展に貢献できず、ケーブルが淘汰される蓋然性が高まる

地域経済・社会の構成要素における変化や対応



# 4. 2030年に向けた事業環境の見通し

個社事情と照らし合わせ、事業環境を直視  
～何もしなければ待ち受けるシナリオ～

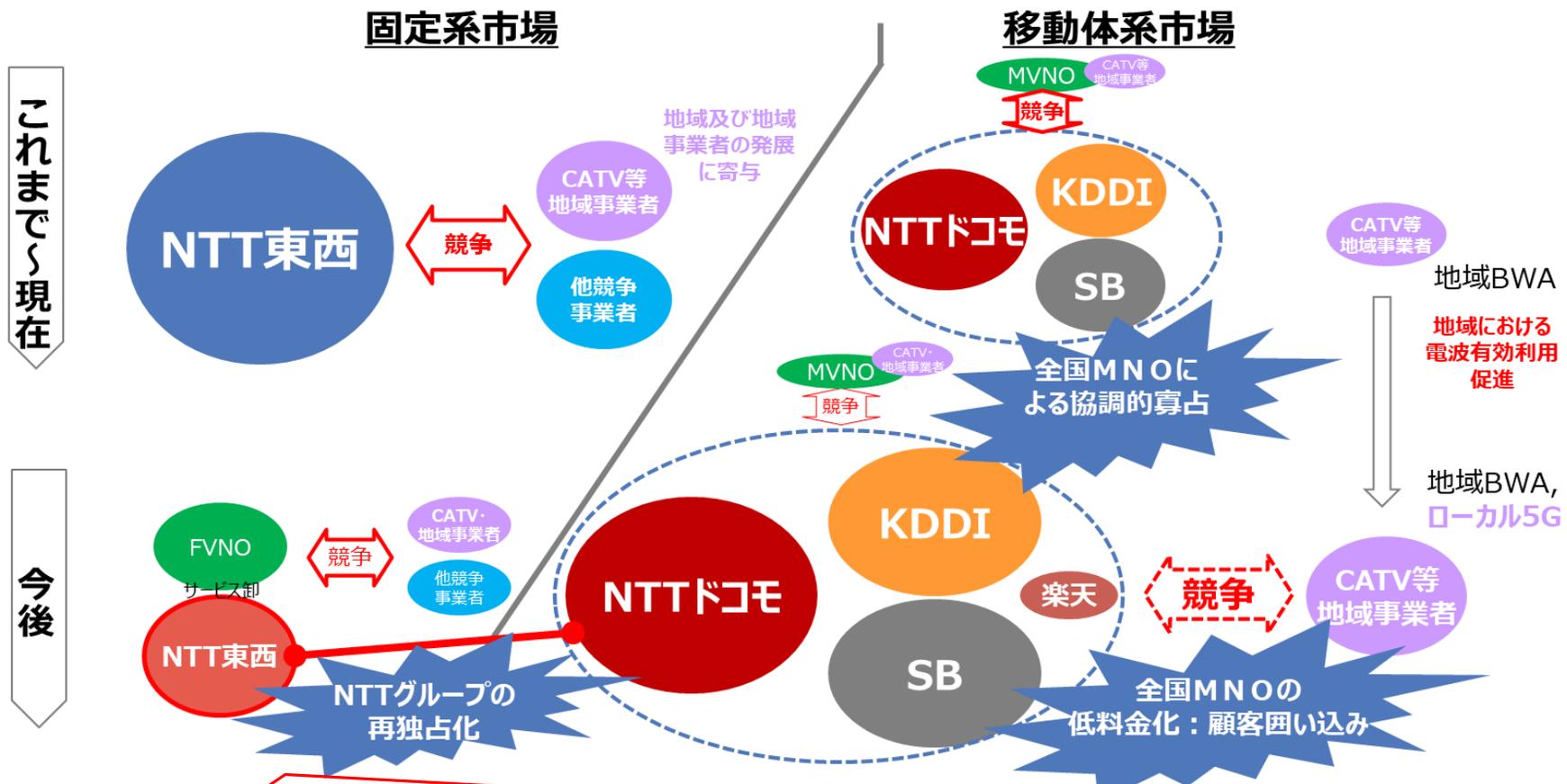
ケーブルテレビ事業の収益力 = ①顧客基盤 × ②地域経済 × ③競争力

見通し

- ・通信市場の規模・収益は固定系から移動体系へシフト
- ・NTTグループ統合、全国MNOの料金低廉化など、競争が激化
- ・放送は、国内外で地上波の高度化とIP化の動きで二極化が進行

シナリオ

- ・電話・放送は、携帯・OTT（他メディア）に代替され「コードカット」が進む
- ・放送を失い、携帯を軸としたバンドルに差別化できず、解約が加速
- ・将来的には再送信基盤としての優位性が失われる蓋然性が高まる



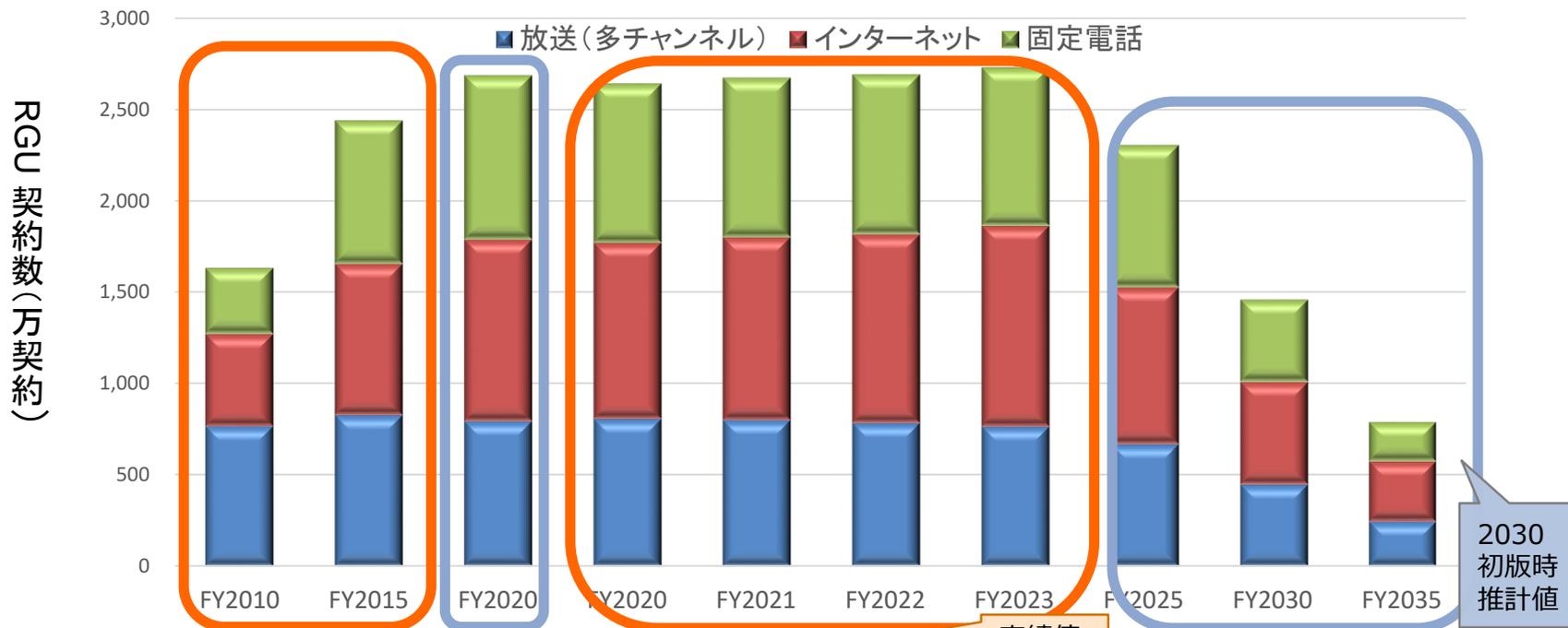
- ✓ ブロードバンド市場の成長率は低下傾向
- ✓ 顧客の囲い込みなど料金・差別化競争へ突入
- ✓ ケーブルの市場シェアは縮小傾向
- CATVはHFC巻取りの最中のため成長の鈍化に気づきにくい！
- FTTHへのマイグレ後対策ができていない事業者は解約増の恐れあり

## 4. 2030年に向けた事業環境の見通し

個社事情と照らし合わせ、事業環境を直視  
～何もしなければ待ち受けるシナリオ～

何もしなければ…

- ケーブルの競争力は低下し、主要サービスの解約が加速。自然減も相まって、顧客契約数は大幅に減少していく。
- 提供商材(価値)及び地域事業者としてのケーブルのブランド (アイデンティティ) を失う。
- ◇ **2020年～2023年の経過について、業界レポートでの公開数字を追記**
- 放送、固定電話が純減するトレンドは想定通りだが、インターネットサービスは競争環境激変の中でも微増と善戦
- ただし、以下3点の推移を注視する必要は変わらない ①HFC巻き取り (光化) の最中にある点、②FTTHへのマイグレーションが十分でない事業者は解約増のリスクを抱える点、③固定系超高速ブロードバンド市場におけるケーブルの市場シェアは縮小傾向にあり、コネクテッドTV (CTV) 普及に伴いテレビにつながるNETとしてもシェアを縮小していると想定される点



(算出方法の補足)

- ケーブルの事業環境 (地域特性及び業績) に基づき4つの類型を定義。類型毎に、世帯数の減少率 (世帯統計) 及び、サービス別の解約率・獲得率 (過去の実績に基づくシナリオ設定・予測) を定量化。
- 連盟会員社を対象に、各類型の顧客 (契約数) が等分 (25%ずつ) であると想定して、上記比率を類型別の契約数に乗じることで、業界全体の契約数を推計。

## 5. 2030年のケーブルテレビが担うべきミッションと目指すべき姿

### ミッション

### 『地域DXで地域を豊かに、人々を笑顔に』

- ◇2030年においても、ケーブルテレビ業界の志は変わらない!! すべては、**地域社会のために、お客様のために!!**
- ◇お客様との関係性は、企業とお客様ではなく、**地域コミュニティを共創する《メンバーシップ》の姿勢で!!**
- ◇**持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》**が、ますます重要!!
- ◇地域課題解決のキープレイヤーとして、地域活性・地方創生など、**地域の共通価値を創造《CSV》**していく!!

### 目指すべき姿～6つのアプローチ

放送が変わる	地域における情報メディア・プラットフォームになる
コンテンツが変わる	地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーになる
ネットワークが変わる	安全で信頼性の高い地域NO.1ネットワークを構築する
ワイヤレスが変わる	地域MNOとして第5のモバイルキャリアを目指す
IDで変わる	ケーブルIDPFで地域の課題解決と 経済圏構築を目指す
サービス・ビジネスが変わる	地域DXの担い手になる

## 6. 2030年に向けたアクションプラン

### 強みを最大限に発揮!!

- ✓ 私たちのサービスや事業は、地域づくり《SDGsへの取り組み》そのものである
- ✓ 顔が見え、足回りが利く事業者として、高齢者はじめ、デジタル難民のサポートができる
- ✓ コンテンツとインフラの両方をもつ事業者として、地域ニーズに総合力で臨むことができる
- ✓ 地域の特性や課題に応じて、多様性のある、しなやかな事業の組み立てができる
- ✓ 「頼りになるのは地元のケーブル!!」を徹すれば、地域のハブ機能を果たすことができる
- ✓ お客様のニーズに総合力で真摯に向き合えば、ブルーオーシャンの世界を作ることできる
- ✓ 個社対応が難しいテーマには、オールケーブルの業界連携をもって臨むことができる

### こんな姿勢で臨みたい!!

- ✓ 各社の事業環境に照らしながら、『それぞれの会社のビジョン』に仕上げていくことが大事!!
- ✓ 10年の計で考えれば、足元の事業基盤強化から、新しいチャレンジまで、考える選択肢はたくさんある!!
- ✓ 「やれるものからやってみよう!!」「どうやったら実現できるか!!」の思考で臨む!!
- ✓ 2030年の社会を念頭におきながら、今から、具体的な行動を着実に実行していくことが必要!!
- ✓ 「変わるものが生き残る」の覚悟にて、さらには「変化を創造する業界へ!!」

## 「目指すべき姿」の実現に向けて、6テーマでアクションプランを策定

放送

コンテンツ

ネットワーク

ワイヤレス

ID

サービス・ビジネス

『新たな事業領域を創出し、顧客創造を図る』

## 6. 2030年に向けたアクションプラン『6テーマのサマリー』

テーマ	アクションプラン
放送が変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>コミチャンをキーコンテンツ</b>として再認識し、放送波以外のあらゆる媒体で<b>エリア内外に配信</b></li> <li>✓ <b>放送ビジネスの変化にしなやかに対応</b>、民放ローカル局とも連携した<b>地域共通映像配信PF</b>などの実現</li> <li>✓ <b>多様なデバイスによる放送視聴環境への対応</b>を推進</li> </ul>
コンテンツが変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ NHK・民放・コミュニティFMとの<b>パートナーシップの加速化</b></li> <li>✓ 制作 &amp; 発信力を磨き、企業・大学・行政等との連携を進め、あらゆる<b>地域情報発信のシーン</b>を担う体制を構築</li> <li>✓ 地域コンテンツのターゲットを、広域・全国・グローバルに展開し、<b>ビジネス規模を数倍に拡大</b></li> <li>✓ <b>satonokaやえんてれ</b>のPFとしての進化・高度化、配信PFの<b>みるプラス・ロコテレ</b>の利活用、<b>AJC-CMS</b>のオープン化</li> </ul>
ネットワークが変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>アクセス網のオール光化</b>の実現</li> <li>✓ 災害の激甚化に備えたネットワークの<b>強靱化</b></li> <li>✓ 他の通信事業者との<b>連携と公正な競争環境の確保</b>に向けた体制の確立</li> <li>✓ 2030年を想定した<b>サイバーセキュリティ</b>の総合的対策の推進</li> </ul>
ワイヤレスが変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域BWAに関して、2023年までの「集中整備期間」を経て、<b>2025年以降は5G NR化へ順次移行を進める。ローカル5Gは共同利用制度の活用によりエリア展開を推進する。</b></li> <li>✓ 地域におけるIoT利用のニーズを掘り起こし、多様なIoTソリューションを活用したBtoB/G顧客接点の拡大および事業モデルの構築を一段と進める。</li> <li>✓ 第5のモバイルキャリアとして1千万回線を実現するため、ローカル5G、地域BWA、MVNO、LPWAなどを組み合わせて、多層的な無線インフラを構築し、音声通信も含め、<b>地域のニーズに即した様々な無線サービスを提供する</b></li> </ul>
IDで変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 次期ケーブルIDプラットフォームの<b>マイグレーションの完了後、新機能の活用の促進を図る</b></li> <li>✓ 2026年までにケーブルID 500万発行、<b>2030年までに1,000万発行</b>を目指す</li> <li>✓ マイナンバーカード活用、地域データ活用（各種水位計や人流データ等）の事例を収集し、<b>地域の通信事業者ならではのサービスモデル</b>の検討を進める</li> <li>✓ 地域の様々なデジタル活用に必要となる認証機能を提供することで、<b>ケーブルIDPFで地域の課題解決と経済圏構築を目指す。</b></li> </ul>
サービス・ビジネスが変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ デジタル弱者サポート、デジタルマーケティング推進による<b>地域顧客対応NO1</b>の実現</li> <li>✓ 「コンテンツ×インフラの総合力」による、<b>業界内外への様々な連携サービス</b>の実現</li> <li>✓ <b>新たな事業領域を創出し顧客創造</b>、2030年の業界全体のビジネス規模3割の実現</li> <li>✓ <b>CATV×スマートシティ</b>の実現・展開</li> <li>✓ CATV×SDGsの実現、<b>SDGs=Good Business</b>へ</li> </ul>

# 6-1. 2030年に向けたアクションプラン ～ 放送が変わる ～

## 最近の動き

- ✓ **【地上波】ケーブルテレビが小規模中継局等の代替手段として、IPマルチキャストやIPユニキャストとともに認定。** ネットワークのコスト低減に向けNHKと民放が中継局の共同利用を行うため、NHKが子会社「日本ブロードキャストネットワーク」を設立。
- ✓ **【NHK】改正放送法により、NHKのインターネットを通じた番組の常時同時配信や見逃し配信の業務が必須業務化され、ネット業務の予算上限を原則撤廃。** 総務省は、2024年12月13日、NHKの基幹放送局提供子会社（日本ブロードキャストネットワーク）への出資を認可。
- ✓ **【民放キー局】TVer は2024年12月の再生数が過去最高4.96億回、約1年で1億回増、2025年1月の月間4,120万ユーザーに達するなど大幅な成長。** 特に、CTVの月間動画再生数も過去最高となる1.6億回を記録、前年同月比で約145%と伸長。ジャンル限定の多数コンテンツを提供する北米で人気のFASTが日本でも開始され、キー局は配信を見据えて**海外のコンテンツグループやFASTに番組やフォーマットの提供を開始。**
- ✓ **【民放ローカル局】日本テレビ系列が持ち株会社を設立し、4基幹局を完全子会社化するなど地域民放の経営統合の動きも。** 名古屋でローカル番組の配信を行っているLocipoへの参加は**5社に拡大。**
- ✓ **【地上放送・BS放送の高度化】** 総務省の地上放送の高度化に向けた検討にケーブルテレビも必要に応じて参画。デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会の**衛星放送ワーキンググループ**では、**衛星放送の地上波代替や災害発生時での活用やHEVC方式の活用について議論。**

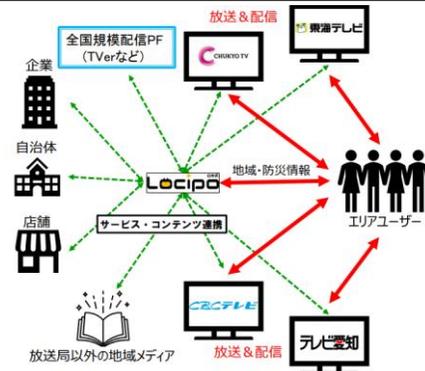
放送法改正後のインターネットサービスについて



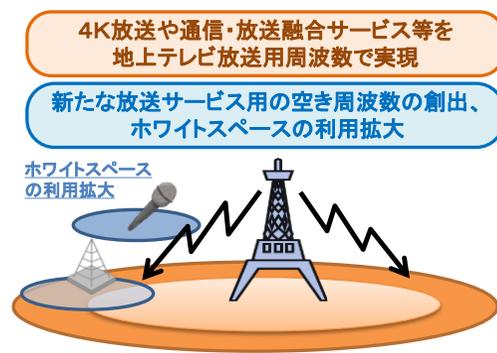
出典：NHK経営計画（2024-2025年度）



出典：Tverプレゼン資料



出典：放送コンテンツの制作・流通の促進に関するWG第2回配布資料（総務省）

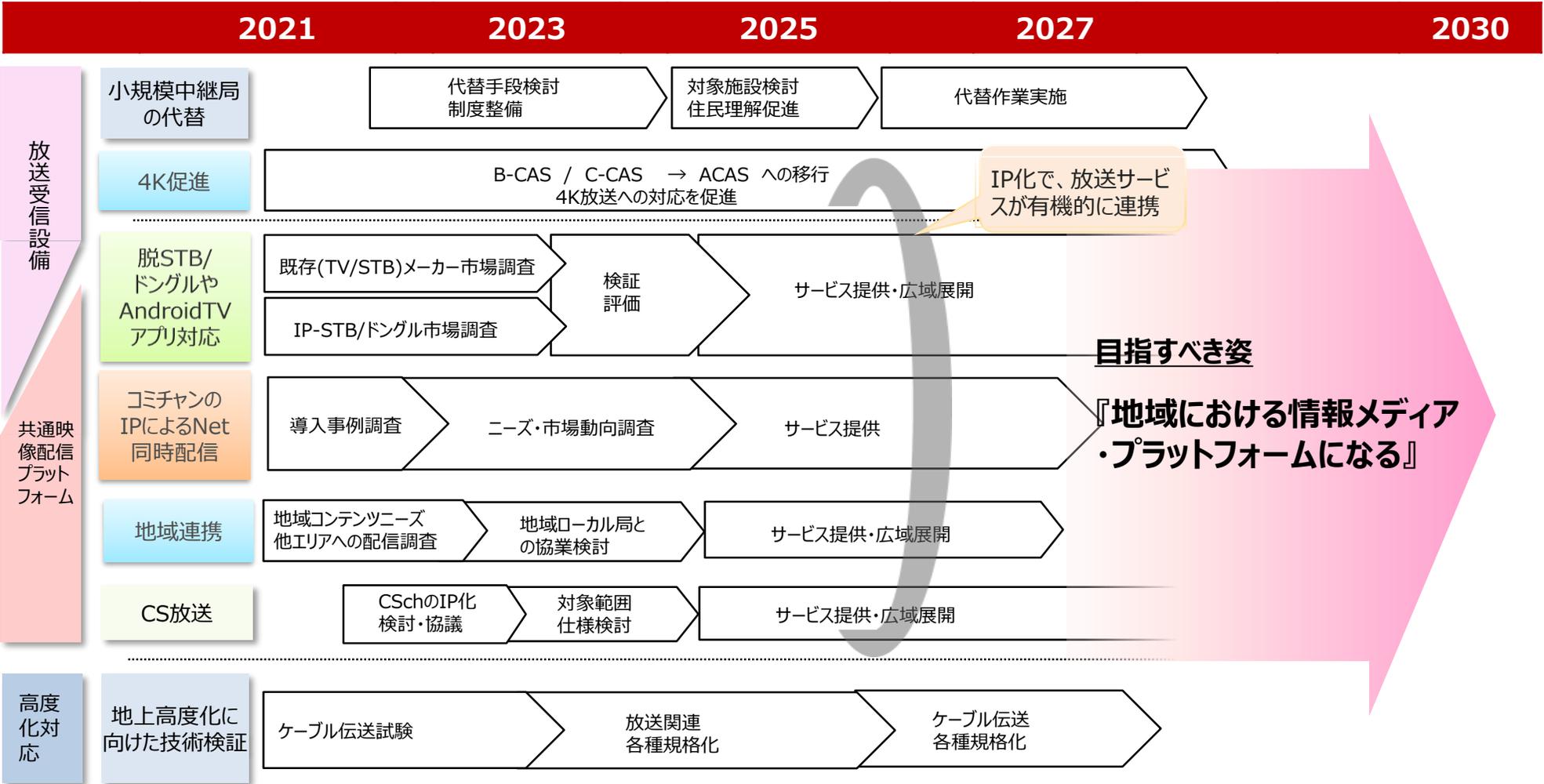


出典：地上放送の高度化に向けた検討（総務省）

## 目指すべき姿 『地域における情報メディア・プラットフォームになる』

- [守] NHKプラスなど放送事業者によるインターネット配信の拡大やOTTの台頭を受け、区域外再送信を含め、従来ビジネスは厳しい状況となるが、**4K放送への対応を促進しつつ、放送ビジネスの変化にしなやかに対応。**
- [攻] 脱STBや将来的なAndroid TVへの組み込みも視野に、ケーブルテレビの新たなポータル(OTTを含む映像コンテンツ等)を提供する**ドングルやAndroid TVアプリの開発**を推進する。
- [守] 地上波・BS・CS等の放送は他でも視聴出来るが、**コミュニティチャンネル放送は差別化できる重要な経営資源として再認識。**これまで培ってきたコミュニティチャンネルを多彩な切り口で進化・発展させ（6-2.で詳述）、**インターネットなど放送以外のあらゆる媒体で、エリア内外に配信を推進。**
- [攻] 地域の映像コンテンツを配信する**共通映像配信プラットフォームの担い手**となることを念頭に、対応可能な地域から民放ローカル局とのパートナーシップを模索し、スキームの構築に向けた検討を進める。
- [攻] 2021年度の実証実験を機に、自社制作コンテンツの放送外での配信の本格的な検討を行っている。インターネット同時配信を含め、多岐にわたる配信先・配信方法、自由度の高いプラットフォーム選定も重要課題。今後は、ケーブルテレビ事業者主導による、**柔軟かつ効果的な映像配信環境構築**に向けた検討を実施。
- [守] 多チャンネル放送の提供事業者に対しては、変わりゆく視聴者嗜好への柔軟な商品設計の対応を要望する。
- [守] 総務省が進める**地上放送高度化に向けた技術実証（4K化）**について、2021年度から2箇年でケーブルラボ、CATV技術協会と共に参加した。次回以降も実証実験に参加し、高度化方式のケーブルテレビへのスムーズな導入を図ると共に、**HEVC方式の活用について議論も注視。**

- ✓ コミちゃんをキーコンテンツとして再認識し、放送波以外のあらゆる媒体でエリア内外に配信
- ✓ 多様なデバイスによる放送視聴環境への対応を推進
- ✓ 放送ビジネスの変化にしなやかに対応、地域ローカル局とも連携した地域共通映像配信PFなどの実現

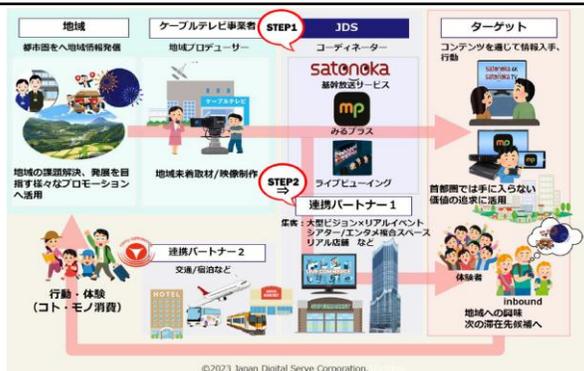


**目指すべき姿**  
『地域における情報メディア・プラットフォームになる』

## 6-2. 2030年に向けたアクションプラン ～コンテンツが変わる～

### 最近の動き

- ✓ **【安心安全・災害対応】** 2024年能登半島地震では、ライフラインとしての地域コンテンツ情報の確保と継続的な提供の重要性が確認された。平時からのネットワーク型ライブカメラの利活用はじめ、地域メディアの役割は益々、重要!!
- ✓ **【生活者の心を動かすコンテンツ】** 放送・映像配信・イベント等のスタイルを問わず、生活者の心を動かすコンテンツが、様々な形でリアルな社会価値を生み出している。コンテンツ事業は地域価値の創造に欠かせないキーアイテムへ。
- ✓ **【民放連】** 民放連の技術部門では「ネイティブ版縦型動画変換システムの開発」(EX) が優秀賞を受賞(2024年9月)。AIを活用して、横型の放送用映像素材を適切に縦型に切り抜き、テロップを縦型動画に再配置するなど、スマートフォンに合わせた動画を自動生成するシステムとして注目。
- ✓ **【民放ローカル局】** 生成AIを活用したメタデータ情報の付与で、地域の魅力を発掘し、ローカルコンテンツの新たな流通機会を創出しようとするLCB(ローカルコンテンツバンク)の実証実験がスタート(2024年12月)、系列や業界を超えた連携など、今後の展開に注目。映像制作や編集業務において、生成AIを活用したコンテンツ創出、効率的な映像処理業務が当たり前の選択へ。
- ✓ **【業界PFの動き】** 地域活性や地域循環型経済の創出を目指すsatonokaプロジェクト構想のもと、ケーブル4Kは「satonoka4K」(JDS)へ。チャンネル700は地域の縁を繋ぐ地域連携PFを目指し「えんてれ」へ(JCC)と、それぞれリブランディングを実施。
- ✓ **【ケーブルテレビXR・AI研究会】** ケーブルテレビ業界有志による「ケーブルテレビXR・AI研究会」を立ち上げ(2024年12月、32社35名の参加)、各社の知見を結集した魅力的なサービス等の創出への挑戦がスタート。



◇satonokaプロジェクト構想 (JDS)



◇リブランディング  
「えんてれ」(JCC)



◇動画配信PF  
「みるプラス」(JDS)

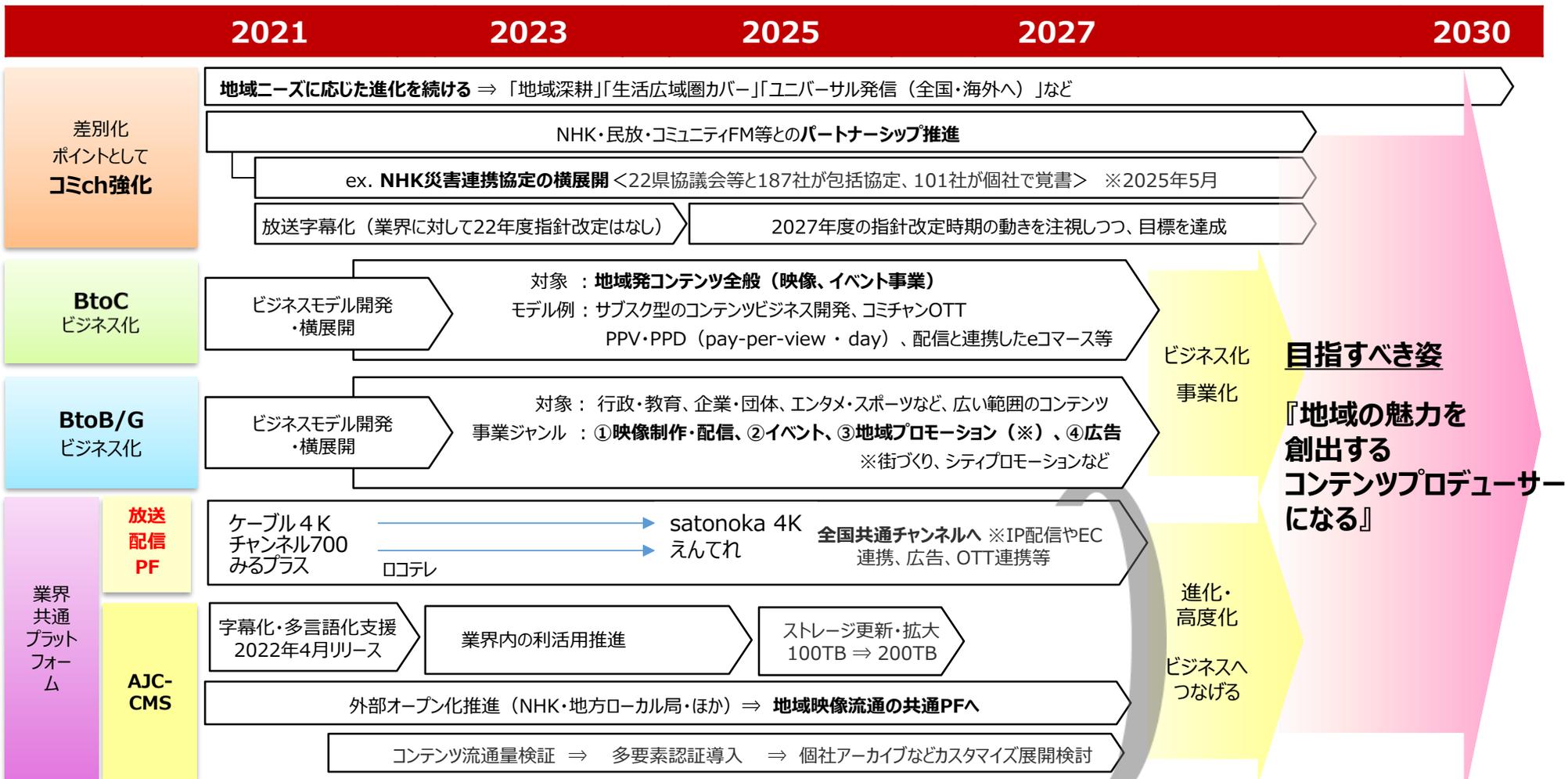


◇動画配信PF  
「ロコテレ」(ニューメディア)

## 目指すべき姿 『地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーになる』

- [守] **原点となるコミch**は、地域のライフライン（命や暮らしを守る）や地域文化の育みなど「さらなる地域深耕」や、地域経済振興につながる「生活広域圏カバー」から「ユニバーサル発信（全国に届ける）」まで、地域ニーズに応じて、いっそうしなやかに対応。
- [守] **地域の安心・安全に係る重要な情報**（災害、パンデミック等）は、NHK・民放・コミュニティFM等とのパートナーシップをいっそう推進
- [守] 2022年度に開催された総務省の「視聴覚障害者等向け放送の充実に関する研究会」による検討では、ケーブルテレビ業界に対する現指針が維持され、**地域社会に寄り添う事業者として、「できる限りの対応を自主的に進める」という指針に沿って真摯に対応。**
- [攻] **映像制作&発信力を磨き、「BtoCからBtoB/G、リアルからオンライン」まで、あらゆる地域情報発信シーンを支え、ビジネス化**
- ① 映像コンテンツを活用した地域の魅力発信や観光客誘致等に係る、総務省・観光庁・文化庁など、あらゆる予算を積極的に活用
  - ② **配信ニーズをビジネス化**するために、配信に係るソリューション力を向上（配信アレンジ、SNS連携、ライブコマース、AI編集、広告）
  - ③ ライフライン・賑わい創出・ヘルスケア支援・教育・スポーツ・シティプロモ等、**住み続けられる街づくりへの貢献など、SDGsを推進**
- [攻] **お客様をより広くとらえ、ビジネスのターゲットを拡大**（広域/全国/グローバル等）。**関係人口や交流人口の創出**につながり、地域社会の持続的な成長に貢献できるような、地域発のコンテンツやビジネス（映像、イベント、ライブコマースなど）をしかけていく。広域への情報発信や国内広域からの収益獲得を目指す各局間連携の強化により、自治体や地域事業者も含めたビジネス規模を数倍に拡大。
- [攻] **業界共通プラットフォームを進化・高度化させ、ビジネスに繋げていく**
1. リブランディングした<satonoka（87事業者、JDS）>と<えんてれ（96事業者、JCC）>を、全国のケーブル事業者や自治体にとって、さらに利用価値のあるチャンネルへ育てていく。配信PFである<ロコテレ（ニューメディア）>には44社/59局が参画し、ケーブルテレビ業界の配信基盤の選択肢として定着、多様な視聴ニーズに応えていく。※2025年5月時点
  2. <AJC-CMS> 流通総数は年間2万番組。内、3千番組が有償で流通。2022年4月に字幕・多言語対応、2024年8月に最大25M配信ビットレート実装、2025年3月に多要素認証導入。2025年度中にサーバー更新し、同コストで容量2倍化。業界外への展開と地域コンテンツの収益化を推進。

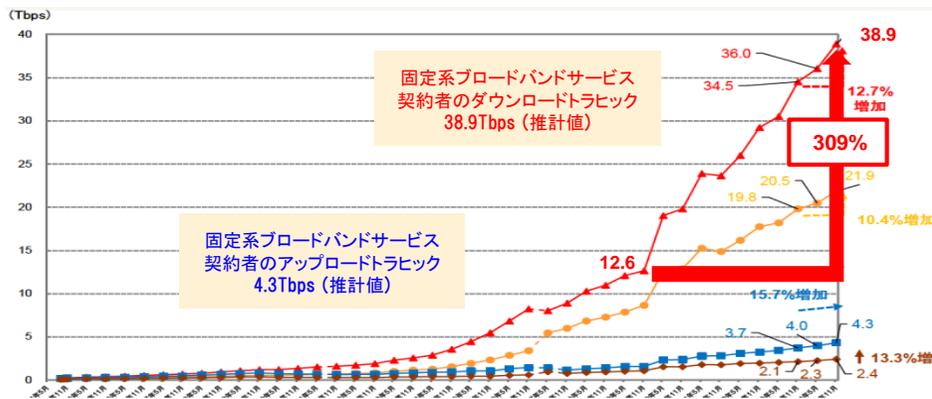
- ✓ NHK・民放・コミュニティFMとの**パートナーシップの加速化**
- ✓ 制作&発信力を磨き、企業・大学・行政等との連携を進め、あらゆる**地域情報発信のシーン**を担う体制を構築
- ✓ 地域コンテンツのターゲットを、広域・全国・グローバルに展開し、**ビジネス規模を数倍に拡大**
- ✓ **satonokaやえんてれ**のPFとしての進化・高度化、配信PFの**みるプラス・ロコテレ**の利活用、**AJC-CMS**のオープン化



## 6-3. 2030年に向けたアクションプラン ～ ネットワークが変わる ～

### 最近の動き

- ✓ 我が国の固定ブロードバンドのインターネットトラフィックについて、2024年11月集計では、38.9Tbpsに達し、5年前の2019年11月比で309%の大幅増加となっており、「**新たな日常**」の普及によってトラフィックが急増。
- ✓ **【次世代NW】** NTTは、2019年5月光を中心とした**革新的なネットワーク「IOWN構想」**を公表。2030年の実現をめざし、研究開発を推進。2023年3月には、IOWN 1.0として超低遅延サービスの提供を開始。2025年以降に光電融合デバイスで低消費電力も実現し、IOWN 2.0を提供開始予定。
- ✓ **【インフラ整備】**2024年に発足した石破政権では、「デジタル田園都市国家構想実現会議を発展させ、「新しい地方経済・生活環境創生本部」を創設し、今後十年間集中的に取り組む基本構想を策定する”としている。2026年、**固定ブロードバンドのユニバーサルサービス交付金制度**が運用開始予定。
- ✓ **【地域IX】**地域IX・CDN等を活用したローカルコンテンツ配信効率化を推進するため、2020年度から実証事業を実施。2022年度までに4事業者が参画した。トラフィックの効率的な処理のため、CDNの導入も進む。
- ✓ **【セキュリティ】**2024年5月JR東日本へのサイバー攻撃でモバイルSUICAが使用不可、同年6月KADOKAWAへのサイバー攻撃でニコニコ動画などのサービスが停止等、社会に重大な影響を与える事案が国内外で発生。ケーブル業界でも被害が報告されている。
- ✓ **【無電柱化】**無電柱化を一層推進するため、2021年度から2025年度までの5年間を対象とした**「無電柱化推進計画（対象路線4,000km）」**が策定された。取り組みを加速するため、地中化の低コスト化や、電柱の新規建柱の抑制など、具体的な対応策が検討されている。



出典：総務省「我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計結果」2025年2月28日

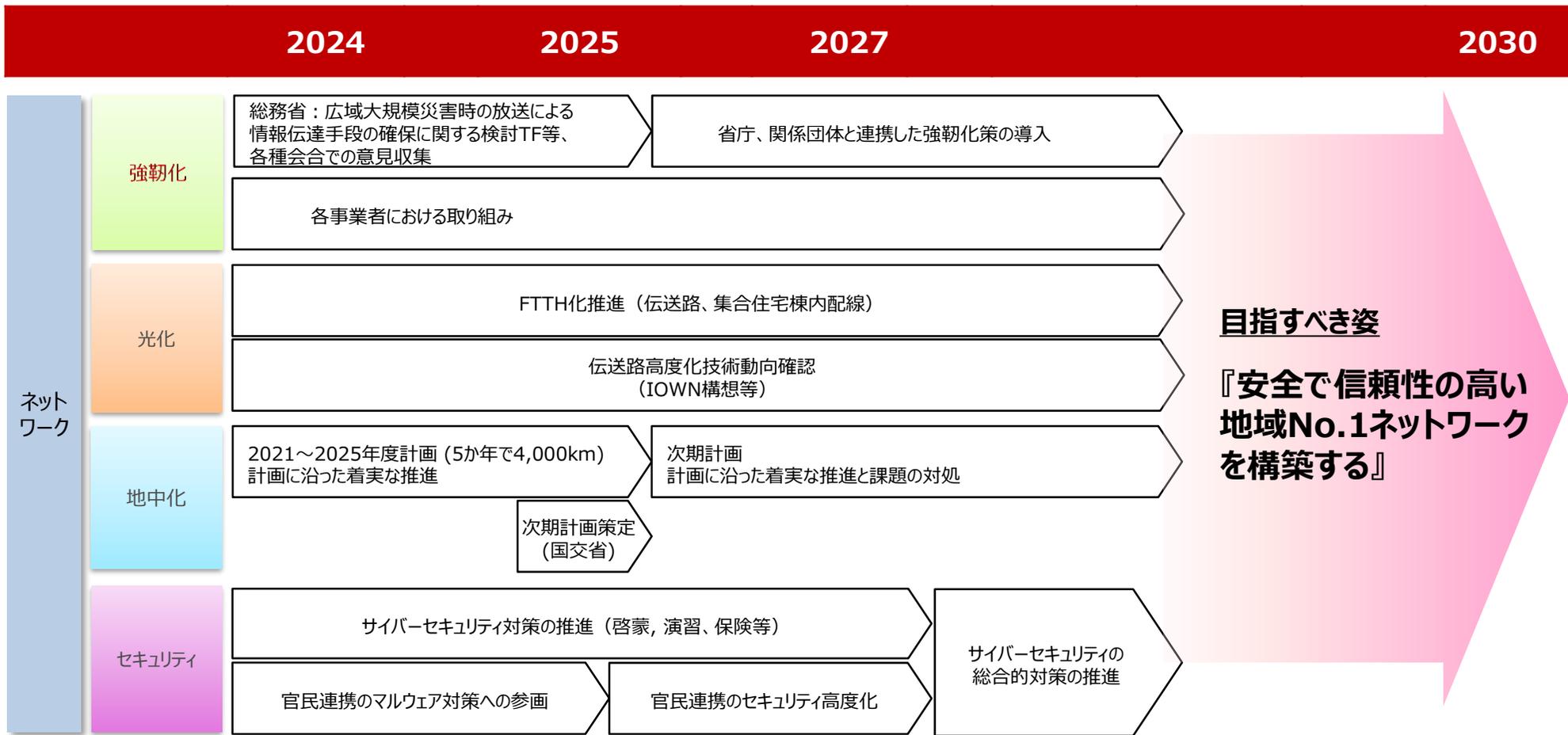


出典：NTT技術ジャーナル

## 目指すべき姿 『安全で信頼性の高い地域NO.1ネットワークを構築する』

- [守] あらゆるビジネスの基盤となる有線ネットワークについて、アクセス網の効率的な**オール光化**を早期に実現。
- [守] 総務省の各種委員会で意見提出を行い、**公正な競争環境の確保**に努める。**通信政策の在り方**の検討への提言や通信制度の改正へのケーブルテレビ業界での適切な対応を推進する。
- [守] 防災性の向上、安全性・快適性の確保等の観点から国土交通省が推進している「無電柱化」について、近年、災害の激甚化・頻発化によりその重要性が増している。中小のケーブルテレビ事業者が活用可能な税制優遇などの支援策を国等に要望するとともに、電柱管理者の状況を踏まえつつ、**現在のサービス提供エリアを確保するための無電柱化の対応を進める**。
- [攻] ケーブルテレビのインフラ設備について、平時は安定したサービスを提供できるよう**最適化**を図り、加えて、大規模災害の発生時にも利用者へのサービスが継続できるよう**強靱化**を推進する。
- [攻] 高度なセキュリティを担保した**地域ネットワーク**を自治体や地元企業のニーズに応じて、各地でワイヤレスも活用した**総合的なソリューション**として提案できるように検討を進める。
- [攻] 地域のトラフィック効率化を推進するため、主要事業者が中心となり、2020～2022年度の3か年で地域IXの実証事業を実施。地域IXやIX事業者の提供するキャッシングサービス、地域DCを活用し、効率的なトラフィック処理を行えるネットワークの構築を推進する。
- [守] サイバー攻撃への防御・予防の**セキュリティハイジーン**に加え、サイバー攻撃を受けた時の如何に被害を最小化し業務の継続と回復させるかの**サイバーレジリエンス**の浸透や第三者認証の取得を推進する。
- [守] サイバー攻撃の巧妙化・悪質化が進み、ランサムウェア被害やサプライチェーンのリスクが増大しており、ケーブルテレビの提供するサービスの安全・安心をユーザに担保するため、**NISCやNOTICEへの参画**や多層防御の導入等により、**加盟各社のサイバーセキュリティ対策の高度化、深化を推進する**。

- ✓ ネットワークの**オール光化**の実現
- ✓ 災害の激甚化に備えたネットワークの**強靱化**
- ✓ 他の通信事業者との**連携と公正な競争環境の確保**に向けた体制の確立
- ✓ 2030年を想定した**サイバーセキュリティ**の総合的対策の推進

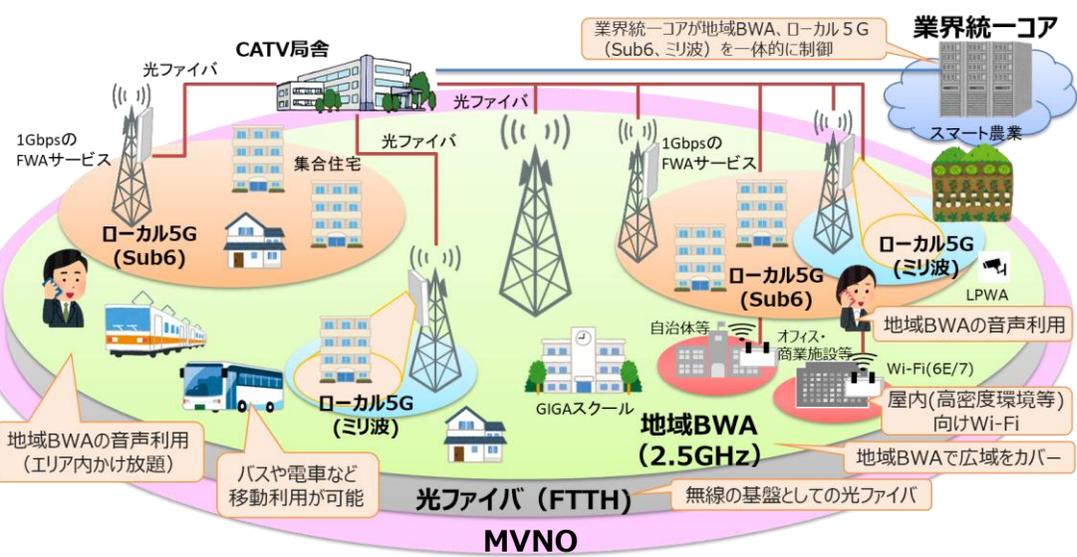


# 6-4. 2030年に向けたアクションプラン ～ ワイヤレスが変わる ～

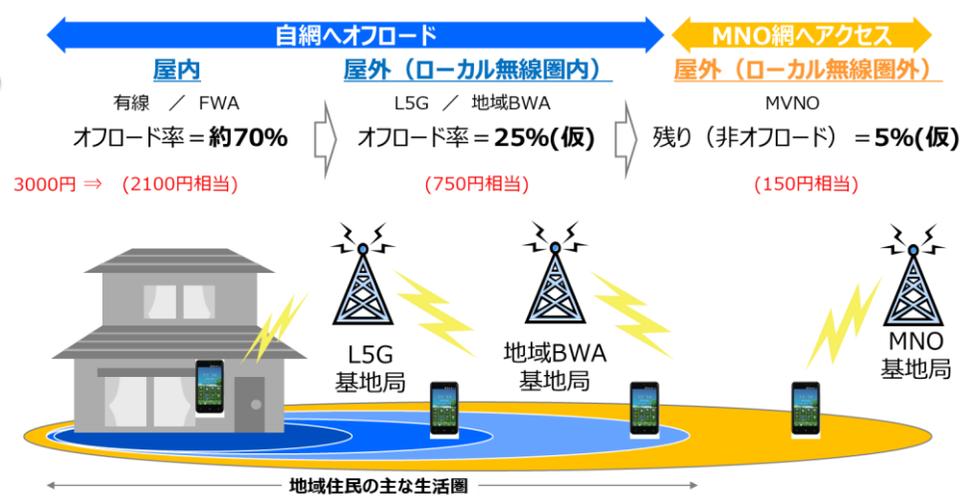
## 最近の動き

- ✓ 【MNO各社】全国MNO4社となり、**5G FWAサービス市場は競争が激化。Starlink等、衛星通信サービスも台頭。**
- ✓ 【ローカル5G】2023年8月に共同利用、2024年9月に端末の高出力化が制度化。上空利用、海上利用の制度化の準備が進み、**新制度がローカル5G利活用を後押し。また、他業界に先駆け、業界ではNWスライシング技術の導入検証を実施。**
- ✓ 【Beyond 5G/6G】2024年4月、XGモバイル推進フォーラム設立。**情報通信産業の成長力強化を推進。**
- ✓ 【MVNO事業】MNOサブブランドの参入により価格競争は更に激化。価値提供の差別化（サービスバンドル、アフターサポート）が重要。各社独自色を加え、**MVNOをフックに既存顧客へのアップセル、新たな顧客基盤の構築につなげる。**
- ✓ 【オープン化・仮想化】楽天モバイル、完全仮想化・クラウドネイティブネットワークを構築。機器ベンダーのo-RAN v-RAN対応も
- ✓ 【IoT事業】社会全体のIoTセンサー利用拡大。地域DXの切り口としての活用が期待。地方自治体との連携を深め、ニーズを掘り起こし、多様なIoTソリューションを活用したBtoB/G顧客接点の拡大および事業モデルの構築を一段と進める。

### 地域のワイヤレスネットワークのイメージ



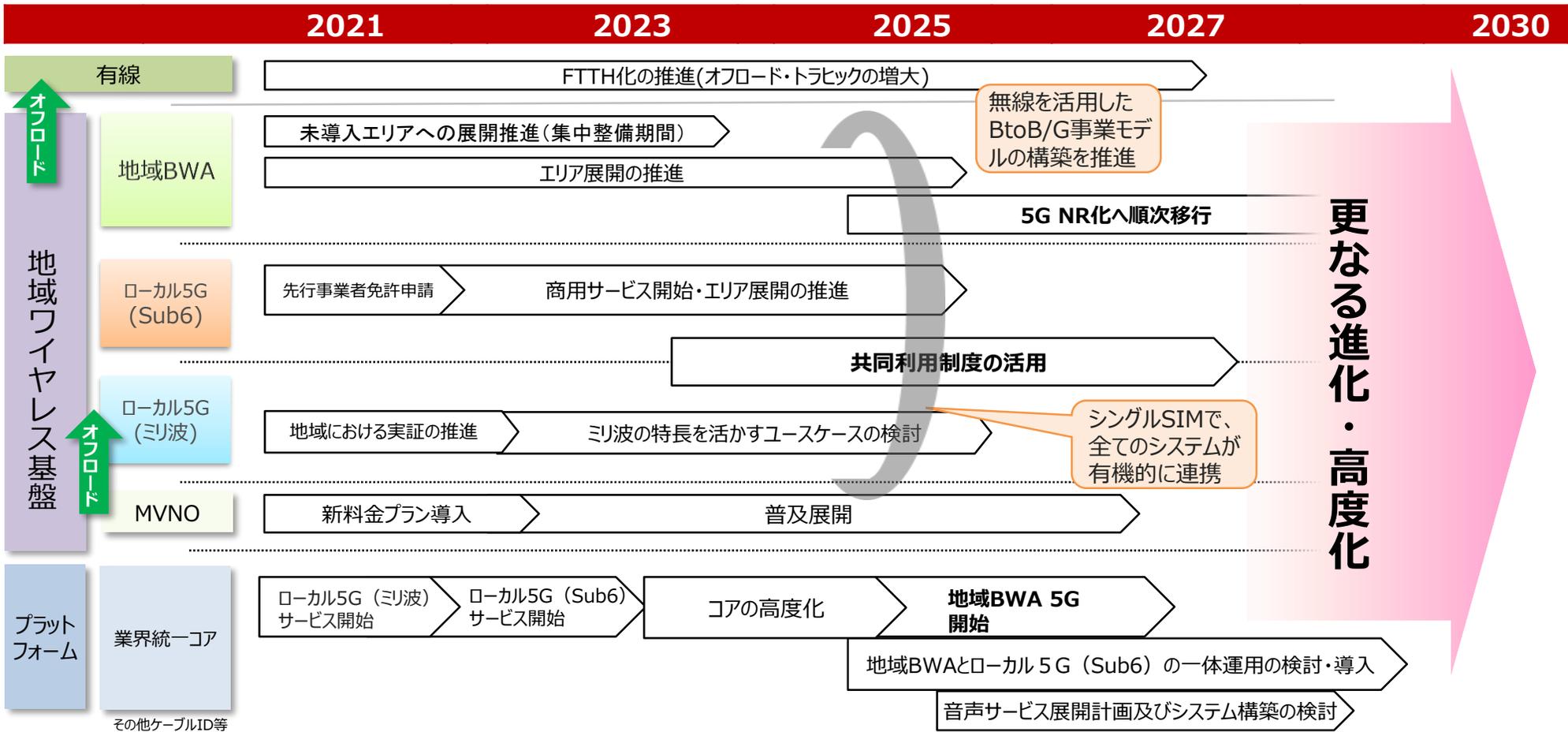
### 有線サービスの強みを活かし地域MNOサービスを提供



## 目指すべき姿 『地域MNOとして第5のモバイルキャリアを目指す』

- [攻] ケーブルテレビ事業者による「無線を起点としたビジネスの在り方」や「支えるインフラ展開の方向性」等を検討し、**2024年3月に無線利活用戦略を改訂**。デジタル田園都市国家構想等に関わる最近の動きを踏まえ、同戦略を適宜更新する。
- [攻] 地域BWAに関して、2023年までの「集中整備期間」を経て、**2025年以降は5G NR化へ順次移行を進める。ローカル5Gは共同利用制度の活用によりエリア展開を推進する。**
- [攻] MVNOと地域BWAサービスを通じて**モバイルサービスの顧客基盤を確保**し、地域MNOとしてのモバイルサービスの開発・導入により、**地域の通信市場におけるBtoC事業を拡大**する。
- [攻] 米国市場で導入が進むFWAの活用や放送用小規模基地局等の通信代替の検討など、無線による電気通信事業の領域が広がる機会を捉え、従来の枠組みに捉われず**顧客ニーズに応じた新サービスを提供**していく。
- [攻] 地域DXに対応するため、地方自治体や地域の中小企業等を念頭に、ローカル5Gと地域BWA、LPWAなどを組み合わせ、地域におけるIoT利用のニーズを掘り起こし、**多様なIoTソリューションを活用したBtoB/G顧客接点の拡大および事業モデルの構築を一段と進める。**
- [攻] **NWスライシング技術**を他業界に先駆けて活用し、多様な顧客ニーズ・無線品質要件に応じた無線サービスを提供していく。
- [攻] 無線通信市場においても大容量化、高速化ニーズが増している流れを踏まえ、ローカル5G（Sub6、ミリ波）と地域BWAの組み合わせなどDual Connectivity（※）技術も活用。**高速化を進めるとともに、順次、地域BWAの5G NR(New Radio)化も進める。**  
※Dual Connectivity：2つの基地局へ同時に接続するキャリアアグリゲーション技術
- [攻] 地域MNOとしての戦略的な事業展開を進めるために、**複数の無線システムを一体的に運営可能な新たなコア・NWの検討を進める。**
- [攻] 第5のモバイルキャリアとして1千万回線を実現するため、ローカル5G、地域BWA、MVNO、LPWAなどを組み合わせて、多層的な無線インフラを構築し、音声通信も含め、**地域のニーズに即した様々な無線サービスを提供**する。

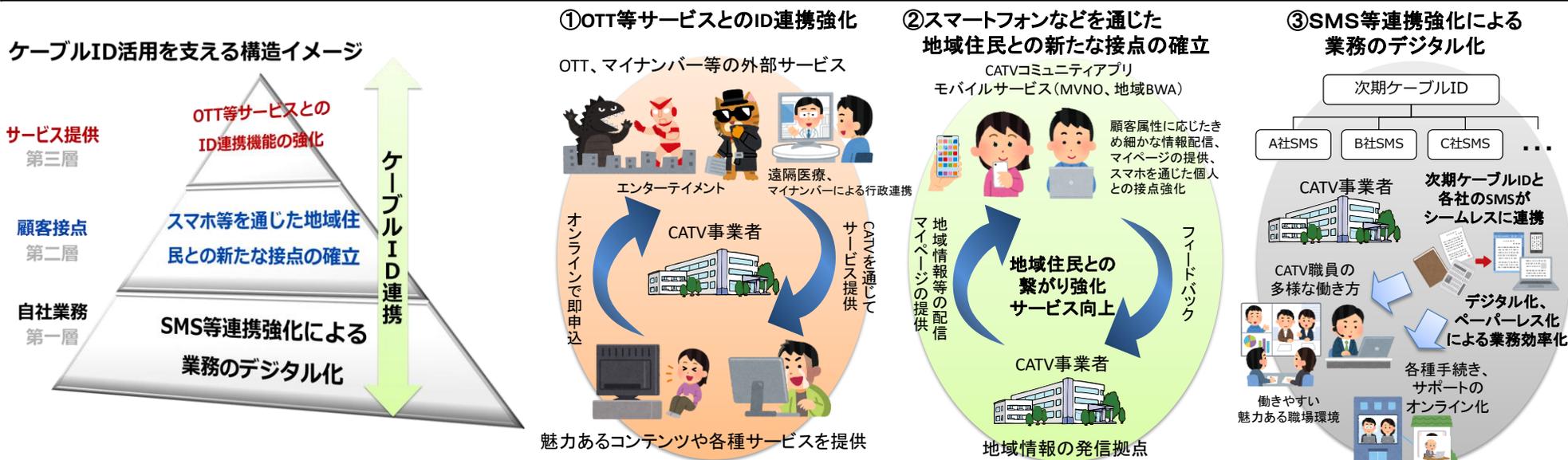
- ✓ 地域BWAに関して、2023年までの「集中整備期間」を経て、2025年以降は5G NR化へ順次移行を進める。ローカル5Gは共同利用制度の活用によりエリア展開を推進する。
- ✓ 地域におけるIoT利用のニーズを掘り起こし、多様なIoTソリューションを活用したBtoB/G顧客接点の拡大および事業モデルの構築を一段と進める。
- ✓ 第5のモバイルキャリアとして1千万回線を実現するため、ローカル5G、地域BWA、MVNO、LPWAなどを組み合わせて多層的な無線インフラを構築し、音声通信も含め、地域のニーズに即した様々な無線サービスを提供する



更なる進化・高度化

## 最近の動き

- ✓ 世代を問わずデジタルシフトが進んでおり、ケーブルテレビ事業者は対面の強みだけでなく、デジタル接点も意識する必要がある。デジタル接点の強化は業務DXの推進や新たなサービスの導入に重要であり、これを実現するためにはIDの利活用が必須となる。
- ✓ ケーブルIDプラットフォームは、ケーブルスマホ（MVNO）の提供やOTT連携等業界共通サービスを提供。ID発行数も330万を突破するなど、業界連携に不可欠なプラットフォームに成長。
- ✓ ケーブルIDプラットフォームは、いち早くマイナンバー連携を実現。全国でマイナンバーカードの普及は2024年12月末時点で全人口の76%まで普及が進んでおり、2025年には健康保険証、運転免許証との一体化が進む。
- ✓ デジタル田園都市国家構想の推進により自治体のデジタル化に向けた動きが加速している。デジタル庁の取り組みを注視しつつ自治体との連携を深め、地域のニーズに基づいたサービスモデルの検討を進める。
- ✓ 次期ケーブルIDプラットフォームシステム化計画に基づき、2024年2月にシステム更新が完了。新サービスの導入検討、各事業者におけるID利用率向上等にも取り組み、デジタルでの顧客接点強化を推進する。

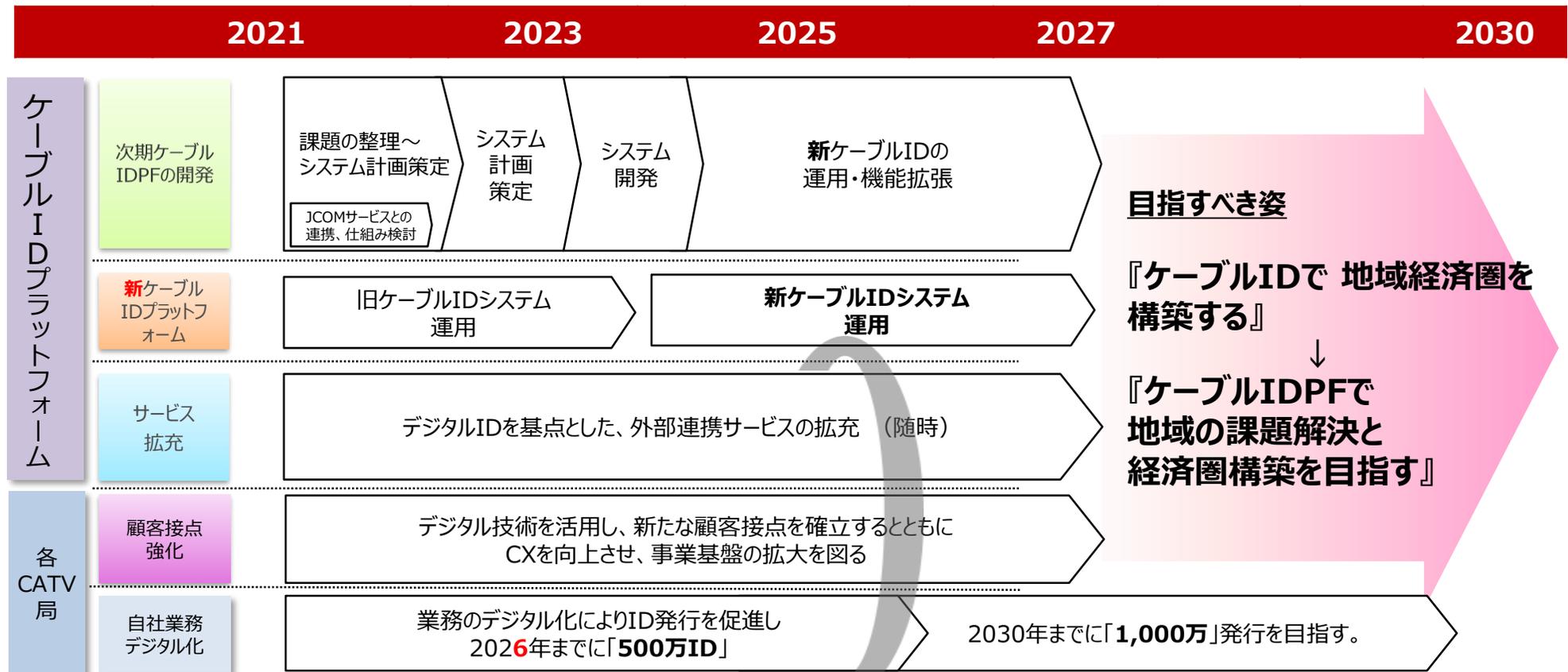


## 目指すべき姿

## 『ケーブルIDPFで地域の課題解決と、経済圏構築を目指す』

- [守] 社会の変化、顧客ニーズの多様化に応えるために、**対面とデジタルの両方の利点を生かしたケーブルテレビ事業者ならではの顧客サービスを提供する。**
- [守] 様々な顧客サポート機能を具備するマイページや、**毎日利用する情報配信サービス（Webサイト、動画配信、コミュニティアプリ、SNS等）を提供することで顧客とのデジタル接点を確保し、ケーブルテレビ事業者ならではの地域密着のオンラインマーケティングを実現する。**
- [守] 次期ケーブルIDプラットフォームのシステム化計画に基づき、**次期システムへのマイグレーションを完了させ、新たな機能の活用を促進する。**
- [守] 「デジタル x 対面」のスムーズな顧客サポートを支えるシステムの在り方を、顧客管理システム等の重要な関連システムまで含めて整理し、**効率的・効果的なシステム投資を実施の上、業界連携によるデータ基盤の活用を目指す。**
- [攻] 次期ケーブルIDプラットフォームによる業界連携を推進し、ID利用者層を加入者だけでなく家族/未加入者へも拡大することで、2026年までに**ケーブルID500万発行**、2030年までに**1,000万発行**を目指す。
- [攻] 地域住民からの信用がありかつ対面・デジタルの両面のサポートができる強みを活かし、**遠隔医療や見守り等の新サービスの検討・導入を進める。**
- [攻] マイナンバーカード活用、地域データ活用（各種水位計や人流データ等）について活用事例を収集し、**地域の通信事業者ならではのサービスモデルの検討を進める。**
- [攻] 地域DXの担い手を目指し、地域の様々なデジタル活用に必要となる認証機能を提供することで、**ケーブルIDPFで地域課題解決と、地域経済圏の構築を目指す。**

- ✓ 次期ケーブルIDプラットフォームのマイグレーションの完了後、新機能の活用の促進を図る
- ✓ 2026年までにケーブルID 500万発行、2030年までに1,000万発行を目指す
- ✓ マイナンバーカード活用、地域データ活用（各種水位計や人流データ等）の事例を収集し、地域の通信事業者ならではのサービスモデルの検討を進める
- ✓ 地域の様々なデジタル活用に必要となる認証機能を提供することにより、ケーブルIDPFで地域の課題解決と経済圏構築を目指す。



## 最近の動き

- ✓ 2023年7月、今後10年間の国土計画「第3次国土形成計画」が公表され、人口減少加速の中、地方の生活機能を守る最後のとりでとして「**地域生活圏**」の形成や、財政・人材面の制約がある自治体主導ではない、民間の力を生かした推進体制による「**ローカルマネジメント法人**」の創出が掲げられた。公共性の高いサービスを提供する民間事業者の各種参入支援策を用意。
- ✓ デジタル田園都市国家構想の主要KPIとして設定された「デジタル実装に取り組む地方公共団体を、2024年度までに1000団体」という目標は、**2024年3月時点で1757団体まで進捗**。 ※ただし、なんらかのデジタルサービスの実装に着手した自治体数
- ✓ 2024年10月、石破総理は「**地方こそ成長の主角**」と述べ、「**地方創生2.0**」の推進を宣言。これらを実現する政策として、地方創生の交付金を当初予算ベースで倍増させた上で、11月には**内閣官房に「新しい地方経済・生活環境創生本部」**を創設し、今後10年間、集中的に取り組む基本構想を策定すると述べた。
- ✓ これまでの「デジタル田園都市国家構想推進交付金」は、『**新しい地方経済・生活環境創生交付金**』として改定され、地方創生の取り組みがさらに強化され、デジタル技術を活用した地域の活性化や生活環境の向上が期待される。
- ✓ WHOの新型コロナ終息宣言から約2年。リモートとリアルの融合、観光・レジャー産業の復活、環境や健康へのサステナブル意識の高まりなど、**新しい常態が形成され、企業はこれらのトレンドをビジネス視点から捉え、持続的な成長を目指して顧客基盤の確立に取り組んでいる**。

### 新しい地方経済・生活環境創生交付金 制度概要本説明会

第1部 「デジタル実装型 TYPE1/V/SJ」

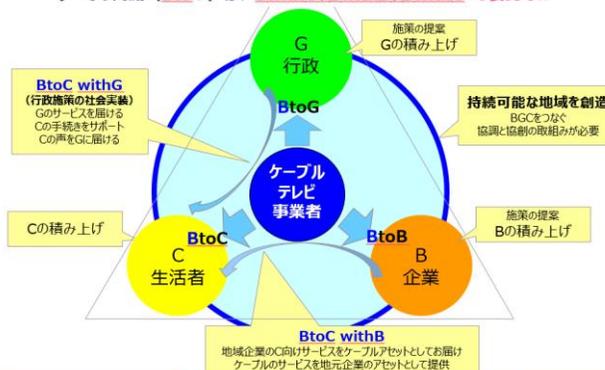
令和6年12月26日

内閣府 地方創生推進室  
内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局  
デジタル行政改革会議事務局  
デジタル庁 国民向けサービスグループ

#### 「地域サービス・ビジネス」のscope ～ 顧客

改定後

地域ビジネスは地域のため!! 究極的にはCのため!!  
すべての商流 (Bto●) は、**BwithG, BwithB, BwithC** の姿勢で!!



※出典:地域ビジネス推進TF  
顧客基盤の確立と創造に向けて  
ケーブルテレビ業界にとっての  
お客様の範囲や目指したき商流と  
その姿勢をまとめたもの。

## 目指すべき姿 『地域DXの担い手になる』

[守] IDや各種アプリ、データを駆使したデジタルな顧客接点、住民接点が地域DXのベースとなる。そのために、社内業務のペーパーレス化、顧客接点におけるIDの活用、地域ニーズに基づくデジタルなサービスの強化を進める。

2030年に向けて、2024年までと設定していた「顧客接点におけるデジタル活用強化期間」を2027年まで延長し、以下を進める。

- ① 《強みの強化》 デジタル化の浸透に向けて、顔が見える事業者としての足回りやアナログな対応を業界の競争力とする。  
高齢者支援はじめデジタル弱者を救済するようなお客様サポートプランは、業界をあげてノウハウを横展開
- ② 《新たな局面への挑戦》 デジタル導線上で蓄積される顧客データは次のフェーズへの飛躍の源泉。  
J:COM等先進的な事業者に学び、デジタルマーケティングを推進。

[守] 業界連携の強みを生かして＜BtoB・BtoG・BtoC先進事例説明会＞を継続開催（2025年5月時点で32回）。2025年6月には地域ビジネス推進TFが『地域ビジネス戦略2025』をとりまとめ発表。目指すべき姿を一步進め「地域DXで《街と人の健康》の担い手になる」を掲げ、業界ナレッジのアーカイブ情報等にはAI検索機能も検討。地域ビジネスの実践力向上、業界内アクションをバックアップ。

[守] 「地方創生2.0」のもと、新設「新しい地方経済・生活環境創生本部」を中心に関連省庁や地方自治体はデジタル活用による地域活性化や生活環境向上のために、長期視点で強力で地方創生を推進。自治体等とのDX推進連携協定の締結、産官学コンソーシアム等への参画等により、既存事業（本業）を核としながらも、提案機会を創出し、BtoB/G向けソリューション事業を拡大する。

[攻] 有線・無線インフラを使用したICTソリューション力を基盤に、パートナーシップを推進し、関連省庁の予算も活用しながらデジタル活用の実証や実装事業に取り組む。特に、スマートシティに向けた「データ連携やエリアデータ利活用」は、先行事業者によるユースケースが重なり、この指とまれ方式の業界横提案をスタート（2024年8月）、今後一層の推進。

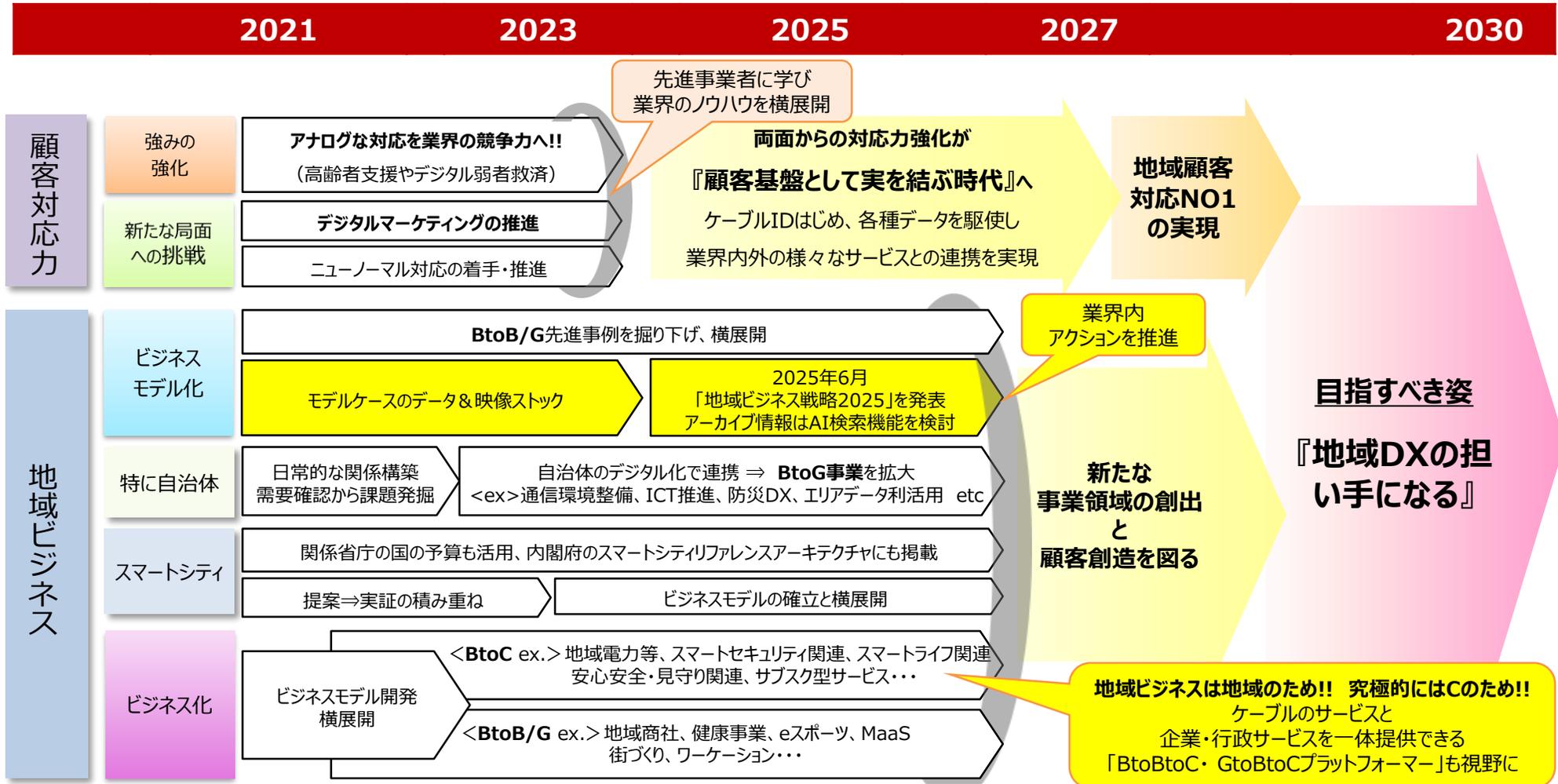
[攻] コンテンツ×インフラの総合力で、BtoC、BtoB/Gの両面から、新たな地域ビジネス領域を開拓するとともに顧客を創造する。

- ① 新展開 ⇒ 地域DX + 地域GX、地域商社、eスポーツ、総合生活支援（健康事業・MaaS・買い物支援・サブスク型サービス等C向けメニュー）など
  - ② 従来取り組み強化 ⇒ 個人・街の安心安全（防犯カメラ・防災DX等）、街づくり（施設管理請負事業の拠点を中心とした展開等）など
- 持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》に貢献、SDGs = Good Businessへ。

# 6-6. 2030年に向けたアクションプラン ～サービス・ビジネスが変わる～

## ロードマップ

- ✓ デジタル弱者サポート、デジタルマーケティング推進による**地域顧客対応NO1**の実現
- ✓ 「コンテンツ×インフラの総合力」による、**業界内外への様々な連携サービス**の実現
- ✓ **新たな事業領域を創出し顧客創造**、2030年の業界全体のビジネス規模 3 割の実現
- ✓ **CATV×スマートシティ**の実現・展開
- ✓ CATV×SDGsの実現、**SDGs=Good Business**へ



## 7. 2030ケーブルビジョンの実現に向けて業界が変わる！

### 問題意識

- ✓ 「放送」、「コンテンツ」、「ケーブルテレビインフラ」、「サービス・ビジネス」の変化に対応するため、連盟活動の在り方等も含め、**業界横断的な取り組み、業界活動を強化**することが必要ではないか。
- ✓ 2030年を見据えたケーブルテレビ業界の在り方を検討し、着実に推進していくためには、**ダイバーシティの観点から広く意見を聴取**するなど、継続的なフォローアップが重要ではないか。
- ✓ ケーブルテレビ事業者は、その規模や地域、事業内容、人的リソースなど様々だが、**ケーブルテレビ業界として問題意識を共有し、各社の事情に応じた取り組みを進める**べきではないか。
- ✓ 新たなビジネスには、ケーブルテレビ事業者にはいなかった新たな技術や専門知識を持つ人材が必要であり、**業界を挙げて人材育成・確保・アライアンスによるリソース補完を推進**することが必要ではないか。また、人材の課題は地域共通の命題でもあり、ケーブルテレビ事業者が地域の推進役となり、他企業連携で取り組むテーマとしてはどうか？
- ✓ 学生ヒアリングからは、「ケーブルテレビの広範囲なサービス実態や先進的取り組み、地域社会と向き合う姿勢や思いをもっとアピールすべき」との意見多数。2030ケーブルビジョンの実践を重ねながら、**産業としてのブランディング**が必要なのではないか？



※ケーブルコンベンション2025  
キービジュアル

## 従来のビジネスに固執せず、業界をあげた取り組みとする

- [守] 「2030ケーブルビジョン」の継続的な啓発を行い、業界内の課題意識を高め、**真の業界連携による持続的な発展**を目指す。
- [守] 各社の事業環境に応じて、目標設定の在り方も多様。多くの事業者に通じる共通課題、一定数の事業者に共通の課題など、**課題発見につとめ、それに対処**。特に、業界共通課題に関しては、ケーブルテレビ関連**業界団体間の連携**を一層深める。
- [攻] 業界外（行政・事業パートナー・大学生など）に対して、**産業としてのブランディングを推進**。2024年に立ち上げた**業界オウンドメディア（noteによる大学生をコアターゲットにした業界情報発信）**は、会員各社の採用活動シーンで利活用を進める。
- [攻] **地域DX推進に資する「優れた推進の仕組み」を業界内へ横展開**（支部・県協議会の取り組み、地域コンソーシアムへの参画、地域DX推進協定や大学連携協定等の締結など）
- [攻] 各分野において、競争領域と協業領域のコアをはっきりさせ、ケーブルテレビ業界としての**パートナーシップ**を行うべき者を特定し、具体的なパートナーシップの内容を検討。
- [攻] 「**大手事業者が実証を重ねた新たなサービスモデルの業界内展開**」「地方における**中小規模事業者**による実践から生まれた**スモールビジネスの業界内横展開によるスケール化**」、両面から業界連携を進めていく。
- [守] 各社の働き方改革や労働環境整備の取り組みを、コロナ禍における期間限定の対応とせず、制度や運用の常態化を進め、「**健康経営、さらには社員の健康と幸せ（Well being）**」を実現する業界を目指す。
- [攻] **ケーブルテレビ業界におけるDX推進人材を育成**するため、2022年度施策を元に、持続的に推進する。
- ✓ 「**地域DX関連ウェビナー**」を会員社向けに定期的に開催
  - ✓ 業界内人材のリスキリング支援に関する諸施策の企画・推進（**セミナー、eラーニング等の実施**）
  - ✓ 「**Web×IoT メーカーズチャレンジ**」「**WiCON（高専ワイヤレステックコンテスト）**」など地域のDX人材を育成する取組への参画
- [攻] 「2030ケーブルビジョン」進捗状況の**定期的なフォローアップ**、課題に応じた**推進体制を構築・展開**を図る。また、社会情勢や放送・通信技術の進展等を踏まえ、**必要に応じて外部有識者や若手の意見などに留意しつつビジョンの改定**を行う。

## (事業)×(BtoC、BtoB/G) : 各セグメントの定義とアクションプラン

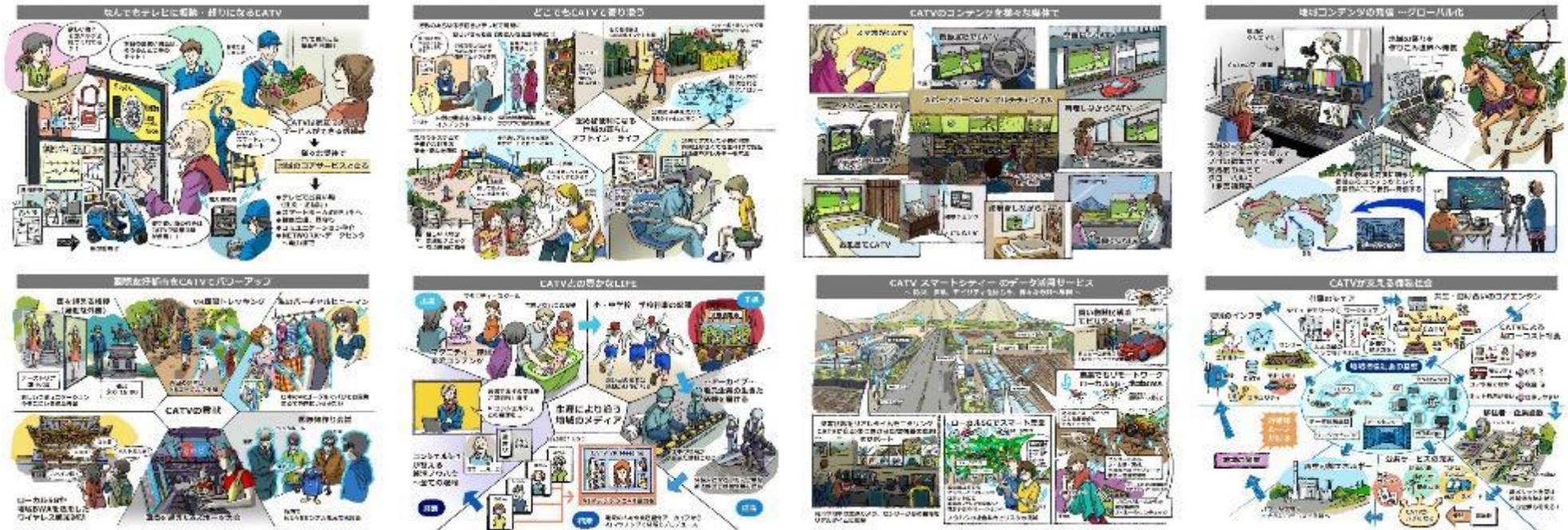
	放送	通信（有線）	通信（無線）	コンテンツ	その他
<b>BtoC</b>	<p>【定義：世帯向けの多Ch等放送コンテンツ（コミチャン含む）】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネット同時配信放送開始</li> <li>OTT提携も含めケーブルポータルとなるドングル・アプリ提供</li> <li>コミュニティチャンネルのコンテンツ強化、エリア内外配信</li> </ul>	<p>【定義：世帯・個人向けの有線インターネット・固定電話や各種インターネット付随サービスの提供】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FTTH移行加速</li> <li>設備投資を行い高速化、安定化</li> <li>トラヒックの地産地消</li> <li>セキュリティ性能向上</li> </ul>	<p>【定義：世帯・個人向けの有線インターネットを補完するFWAやモバイルサービスの提供】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FWAサービス</li> <li>モバイルサービス</li> <li>モバイルを軸とする既存サービスとのバンドル化</li> </ul>	<p>【定義：個人向けのコンテンツ配信やコンテンツをコアとしたアプリ・サービスの提供、映像配信サービス(OTTの提供)】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域発コンテンツ（映像、イベント）のビジネス化</li> <li>サブスク型サービス</li> <li>コンテンツ配信と連携したコマース</li> </ul> <p>※サブスクやコマースは商流によってはBtoBtoCの可能性もあり。</p>	<p>【定義：既存事業におけるケーブルのアセット活用やパートナーリング等を通じた、世帯・個人向けの新たなサービスの提供、周辺事業等への横展開】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <p>【インフラ（バンドル等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電力・ガス事業</li> <li>スマートホーム関連事業</li> <li>スマートライフ（医療・ヘルスケア等）関連事業</li> <li>安心安全、見守り関連事業</li> <li>その他、サブスク型サービス</li> </ul> <p>※BtoBtoC、BtoGtoCの商流の可能性もあり。</p>
<b>BtoB/G</b>	<p>(放送のBtoB/Gは無し)</p>	<p>【定義：行政や教育等の公共や企業向けの有線インターネット・固定電話、回線サービスを軸としたソリューション・SI事業の提供】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政や地元企業のDX化にともなう環境整備</li> <li>wifi整備事業（災害・インバウンド対応）</li> <li>公民館アクセスポイント設置事業</li> <li>GIGAスクール構想を契機とした学校法人向け営業</li> <li>リモートオフィス、ワーケーション環境整備事業</li> <li>高度なセキュリティ水準を満たしたセキュアな回線提供</li> </ul>	<p>【定義：行政や教育等の公共や企業向けの無線サービスの提供や無線を活用したDX化事業】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル5G・地域BWAを推進し、自治体や企業の通信インフラとして新たなポジションを確立</li> <li>セキュアなワイヤレス通信環境とDXアプリのパッケージを提供し自治体・地元企業のDXを後押し</li> </ul>	<p>【定義：行政や教育等の公共、企業や団体、エンタメやスポーツなどを対象とした広い範囲のコンテンツ事業】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害情報等の配信強化（自治体、消防等）</li> <li>映像制作、配信事業</li> <li>イベント事業</li> <li>地域プロモーション事業</li> <li>広告事業</li> </ul> <p>※配信事業やイベント事業は商流によってはBtoGtoCやBtoBtoCの可能性もあり。</p>	<p>【定義：既存事業におけるケーブルのアセット活用やパートナーリング等を通じた、行政や教育等の公共や企業向けの新たなサービスの提供、隣接事業等への横展開】</p> <p>☞想定するサービス・取り組み</p> <p>【医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン診療導入のための病院・介護施設向けサービスパッケージ開発・提供</li> </ul> <p>【スマートシティ他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体、他企業と共同でスマートシティ推進。地域DX推進</li> </ul>

## 各セグメントの主要ポイント

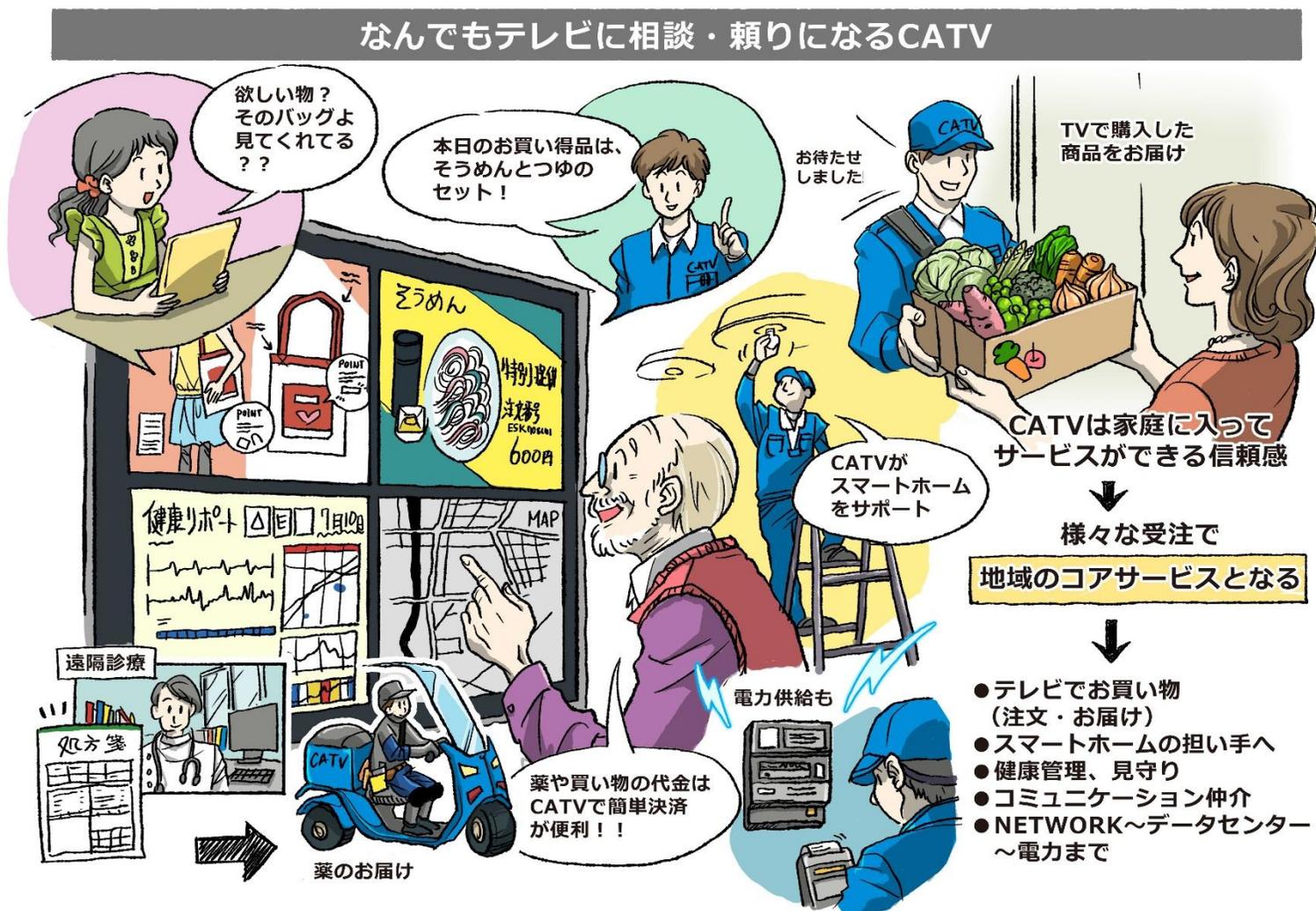
放送	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存の放送と通信（有線）は主として「守り」のアクションプランを実行し、モバイルの提供による<b>解約防止</b>を図る。さらに、全国事業者と競争できるパッケージの展開など、モバイルを多チャンネル放送や有線インターネット契約につなげる<b>顧客獲得フローを構築し、「攻め」の実行が肝要</b>。</li> </ul>
通信 (有線)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自治体・企業との関係構築を進め、<b>BtoB/G事業の構築を進める</b>。事業規模よりも、事業の継続性を重視し、<b>地域経済の神経系となるICTインフラの構築を通じて地域を下支えする役割を果たす</b>。</li> </ul>
通信 (無線)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ローカル5G・地域BWAと全国網とのローミング等を通じて、地域MNOとして全国MNOとの競争を狙ったモバイルサービスを展開することで<b>モバイル市場の成長性を取り込み、4つ目の柱として事業規模の拡大を図る</b>。</li> <li>✓ 既存顧客(固定BBで約20%シェア) から攻略することで、<b>今後10年間でB2Cモバイル市場のシェアの約2%*を獲得することを目指す</b>(2030年時点の同市場規模 約4.5兆円のうち約900億円に相当)。</li> <li>✓ BtoB/G事業では、国・自治体の助成金を活用しながら、<b>無線インフラの面展開を進める</b>。</li> </ul> <p><small>*地域MNOのモバイルサービスはCATVサービスエリア中心に競争力を有するとし（サービスエリア内は「使い放題」等）、全国のモバイル市場(回線サービス)のうち、サービスエリア内で全国MNO4社とシェアが拮抗している状態を想定。</small></p>
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ BtoC向けは、<b>地域コンテンツの配信やイベント事業のビジネス化を推進</b>。特定ジャンルのサブスク型サービス事業や、オンラインツアー・観光PRと連携したコマース事業など、<b>新たなサービスの展開により収益化を図る</b>。</li> <li>✓ BtoB/G向けは、地域課題解決の取り組みを進め、地域経済や地域文化の下支えする役割を果たしつつ、地域の経済価値共創（CSRではなくCSVへ）の姿勢で、<b>広い範囲のコンテンツ事業化を進めることが肝要</b>。</li> <li>✓ コンテンツは商流の作り方も様々、<b>BtoC/B/Gトータルで現状の数倍となるビジネス規模の創造を目指す</b>。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ BtoCでは、一部ケーブル事業者が先行する電力・ガスサービス、スマートホーム・スマートライフ・安心安全見守りサービス、その他サブスク型新規サービス展開やバンドルなど、<b>地域内外の事業者とのパートナーリングを推進</b>。</li> <li>✓ BtoB/Gでは、<b>今後の市場の成長が期待されるスマートシティ・地域DXに取り組む</b>。無線と有線を組み合わせたソリューション開発や地域内外のパートナー連携を通じて、有線のみでは実現困難な<b>BtoB/Gソリューションを提供</b>する。これにより、ケーブル業界として、地域づくり《SDGsへの取り組み》を通じて社会課題解決に取り組む。</li> </ul>

- ✓ 「2030ケーブルビジョン」を推進することで、将来どのような社会を実現できるのか、『CATVが目指す社会像』を分かりやすく説明する資料として、イラストを作成。
- ✓ 今後の議論や検討の糸口として、またシナリオを膨らましていくたたき台として、活用いただきたい。関係者間で夢のある共通イメージを醸成することが、ビジョンの推進にお役に立てれば!!

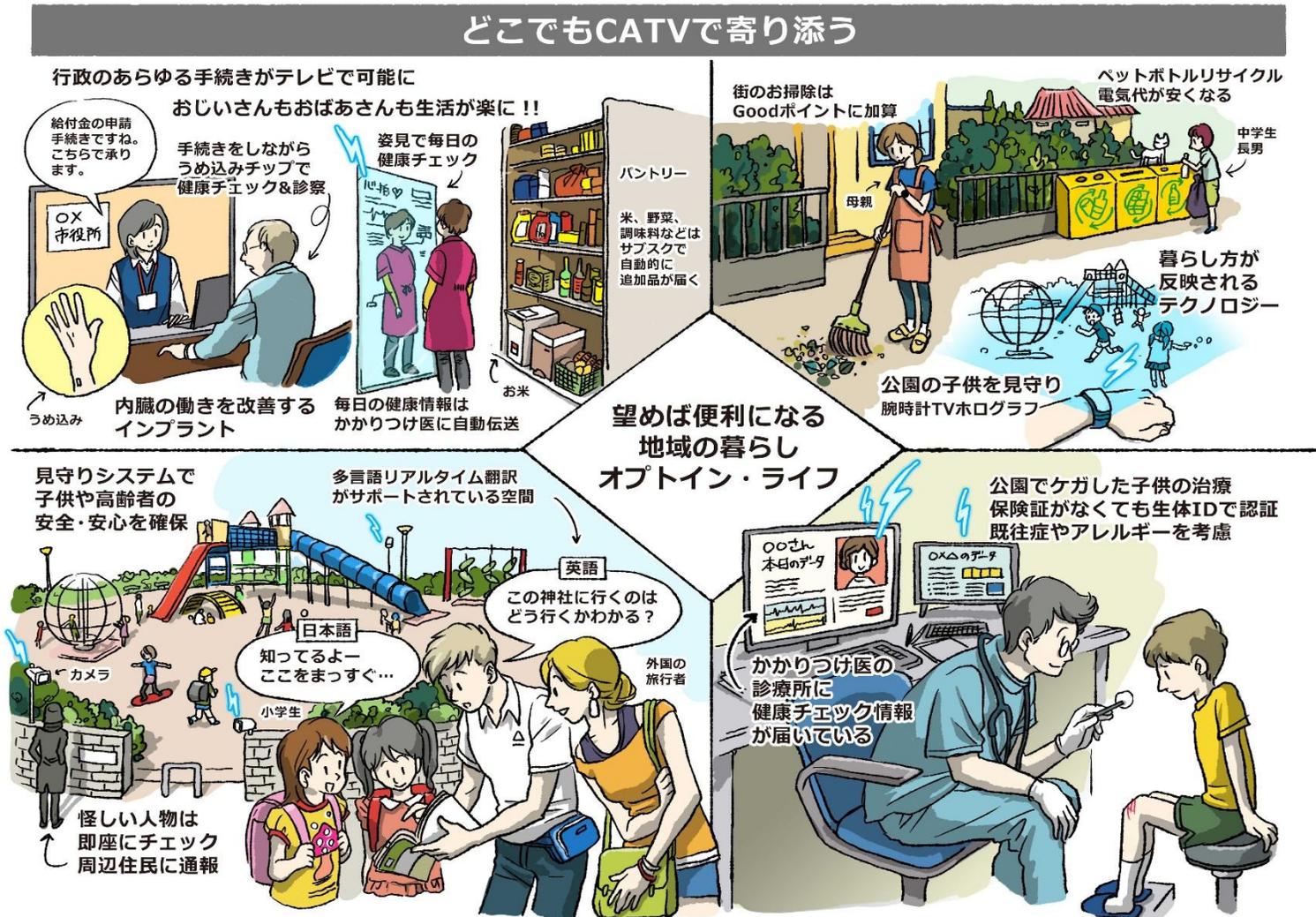
※ 6つのテーマとは別に、社会像が伝わりやすい8つの利用シーンを想定して作成。  
また、アクションプランの記述では表現しきれないことをエッセンスとして加味。



- ✓ 大画面のテレビを使って、誰でも簡単に、買い物、孫との会話、健康管理などが可能に
- ✓ CATV職員が商品のお届けから、スマートホームなど、幅広くサポート



✓ テレビを使った簡単な行政手続き、安全・安心を確保する地域の見守りシステム、日々の健康情報に基づく適切な医療、多言語翻訳によるコミュニケーションの円滑化など、CATVが毎日の生活を支援

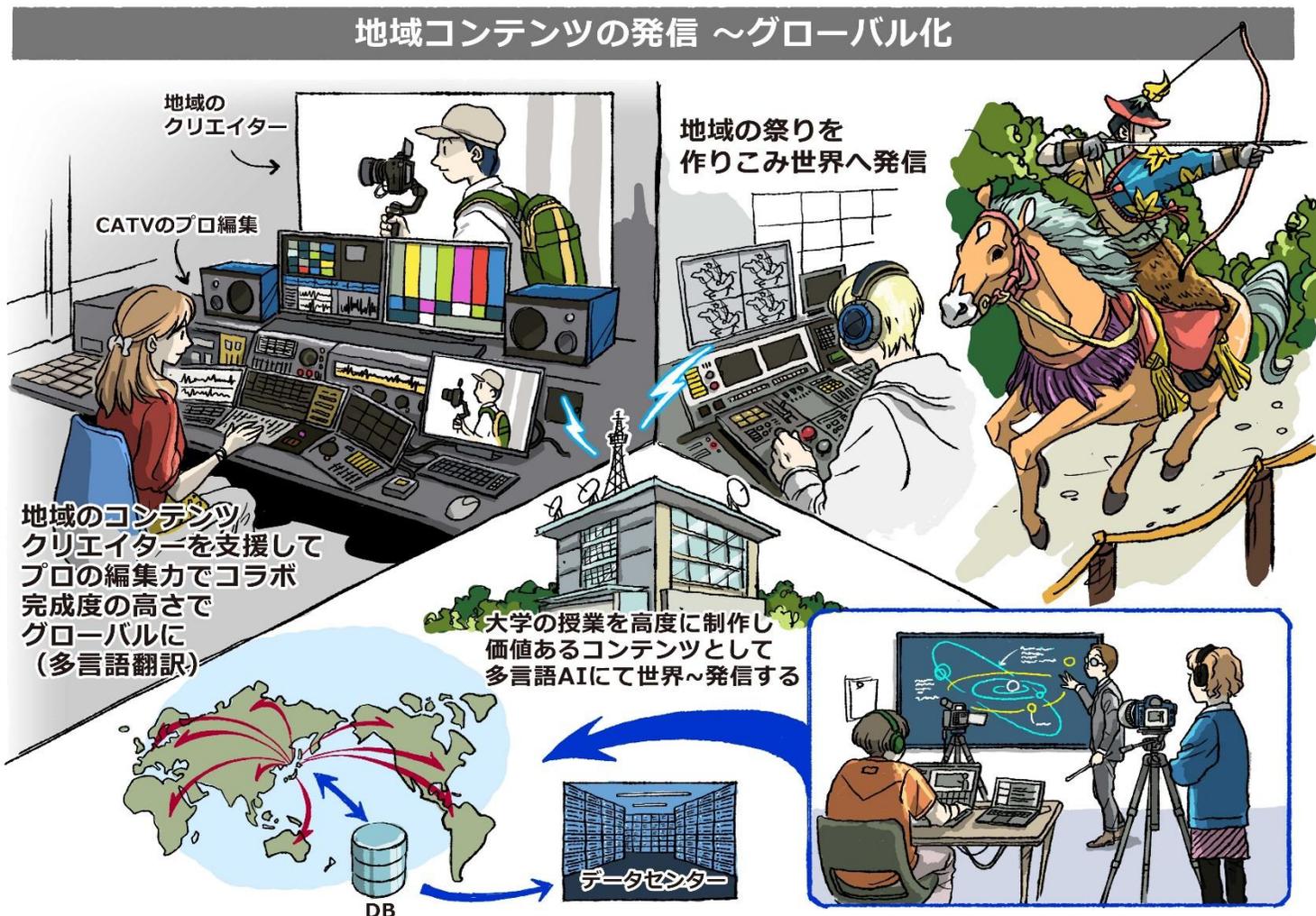


- ✓ CATVの放送コンテンツのIP配信により、家の中だけでなく、自動車や電車での移動中、スポーツバー、街中の大画面など、いつでも、どこでもCATVの放送コンテンツを楽しむことが可能に

## CATVのコンテンツを様々な媒体で



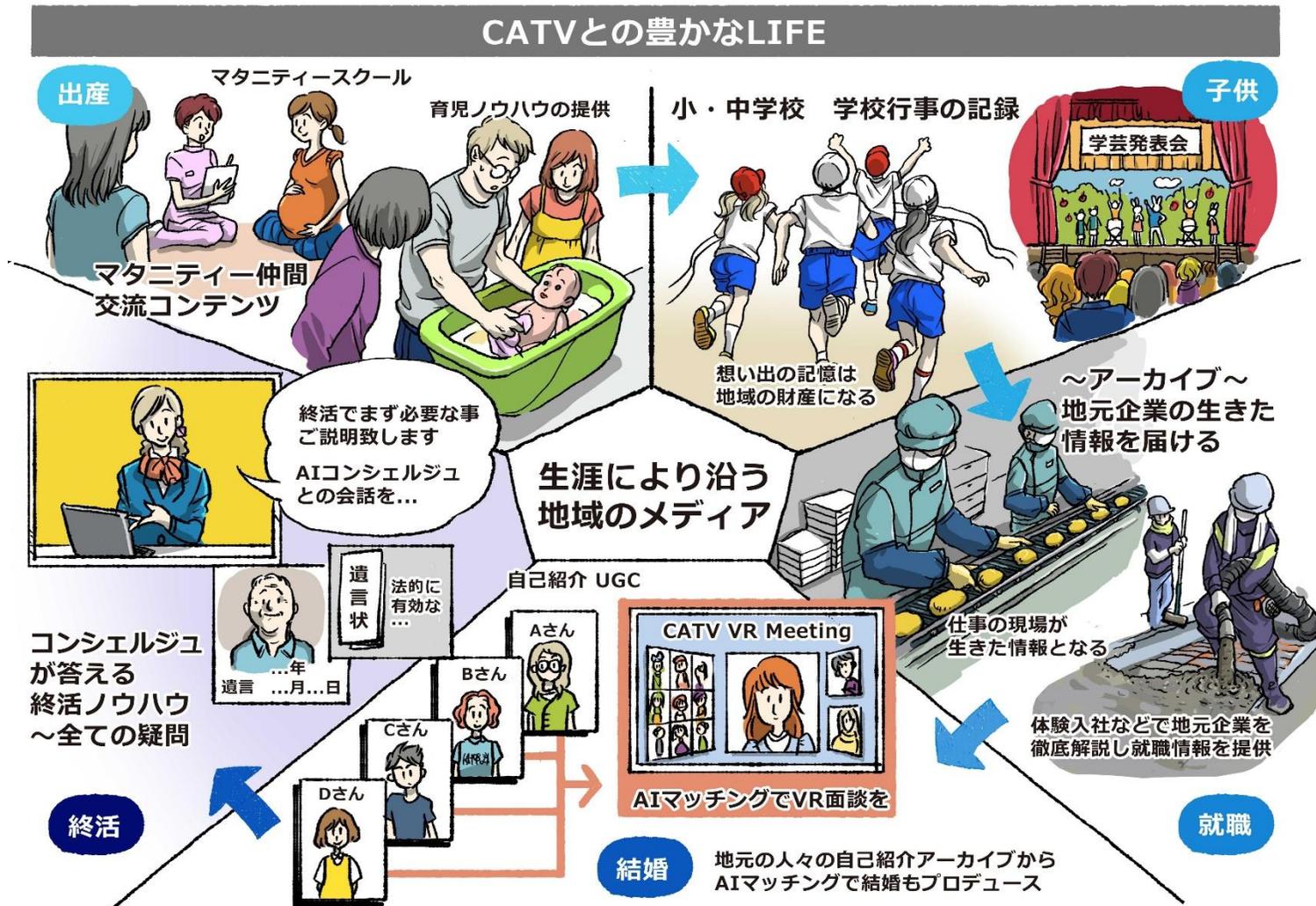
- ✓ 地域のお祭りや大学の授業、地元のクリエイターのコンテンツを磨き上げて、CATVのシステムを使って世界へ発信するなど、地域コンテンツの発信、地域のグローバル化を推進



- ✓ 各国のエンジニアが協力したモノづくりの円滑化、VRを活用した国際トレッキング、ローカル5Gを活用したワイヤレス観光、eスポーツ大会など、地域の国際化、国際交流を支援



✓ 出産、小中学校の学校行事、地元企業の情報発信、結婚から終活まで、CATVのコンテンツ制作力を最大限発揮し、CATVが人生のあらゆるシーンをサポート



- ✓ 広域展開されたローカル5Gや地域BWAを活用し、AI予測による災害情報の配信、自宅からできるリモート農業、自動運転タクシーの配車など、スマートシティ実現を支援

## CATV スマートシティのデータ活用サービス

～ 防災、農業、モビリティをはじめ、様々な分野へ展開 ～

### 災害状況をリアルタイムモニタリング

CATVが自治体における災害情報の集約をサポート

河川や町中の定点カメラ、センサーからの情報をリアルタイムに把握

### ローカル5Gでスマート農業

果樹園などでもセンサーとドローンやロボットにて本来のノウハウ活用へと専念するオペレーションへ

「省力化」  
ノウハウの社会共有とリスクの低減

### 買い物難民解消 モビリティサービス

無人カーのお迎え CATVインフラで運用

### 農業でもリモートワーク

ローカル5G・地域BWA

農業用ドローンで農薬散布・施肥など

高精細イメージセンサーによる農場監視、生育チェック

リモートトラクター

高精度センサー

カンタン

センサーによる、水・土壌・天候。生育などのビッグデータ収集～栽培管理等

リモートによる機械監視 運行チェック～修正指示

リビングルームからの農業機械のオペレーションチェック

操作タブレット

省力化

✓ 5Gや光ネットワーク、データセンターなどのCATVの地域基盤がハブとなり、地域の働き方、地域ビジネス、低炭素社会、地方移住、公共サービス、地域エネルギーなど、地域の循環社会を下支え



# 8. 2030年への飛翔

## 飛翔のシナリオ

～2010年

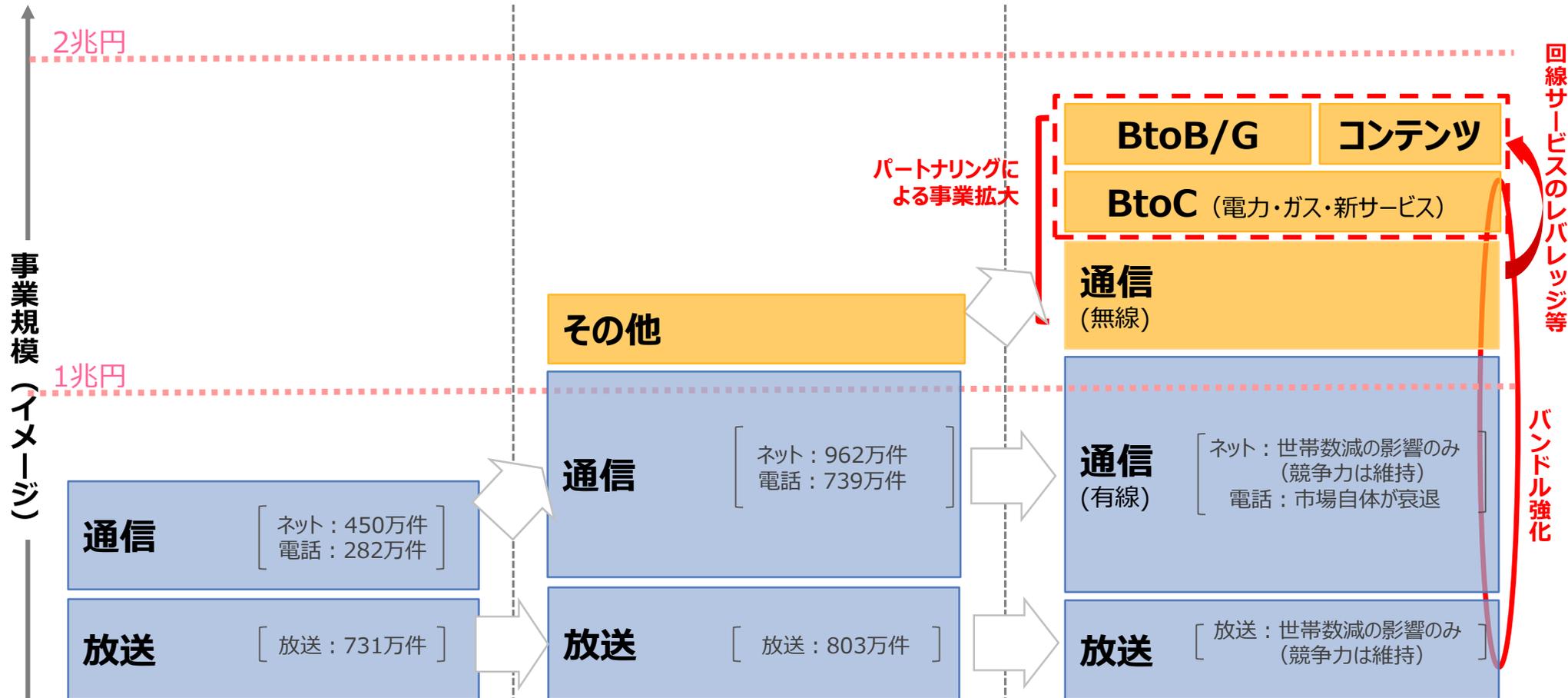
- ✓ 放送で獲得した顧客基盤に対し、ネット、固定電話をバンドルし事業を拡大した時代

現在(2020年)

- ✓ 2030年を見据え成長のトリガーである通信（無線）に投資を開始する時代

将来(2030年)

- ✓ 既存事業とのシナジーに加え、事業領域の拡大と顧客創造を実現する時代



## 『地域DXで地域を豊かに、人々を笑顔に』

- ① 放送・通信（有線）の**既存サービス**は、商品の強化・改善、バンドル強化等で成長を維持する。
- ② BtoB/Gへの注力、広い範囲のコンテンツ事業化、BtoC事業の拡大（電力・ガス・新サービス）により、**新規事業領域の拡大と顧客創造**で多収益化を図る。

2030年に向けたその後の推移として、「業界レポート2024（2024年3月末数字の集計）」より、現在の構成比を追加した。放送の減少を、通信の増加とその他の大幅増加で業界の成長を支えている構造が確認できる。

### 業界の取扱高（連盟会員社ベース）

将来(2030年)

現在(2024年)

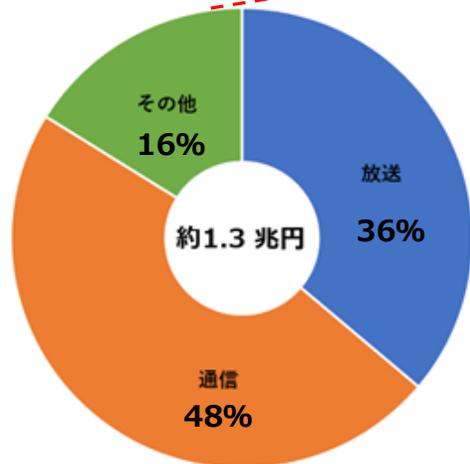
2020年

**【放送】の見立て**

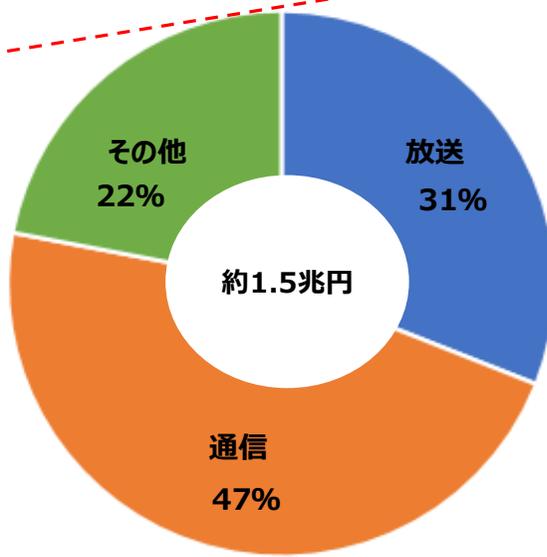
- ✓ 世帯数全体の自然減
- ✓ 各種バンドル戦略で解約率・獲得率は2020年を維持

**【通信(有線)】の見立て**

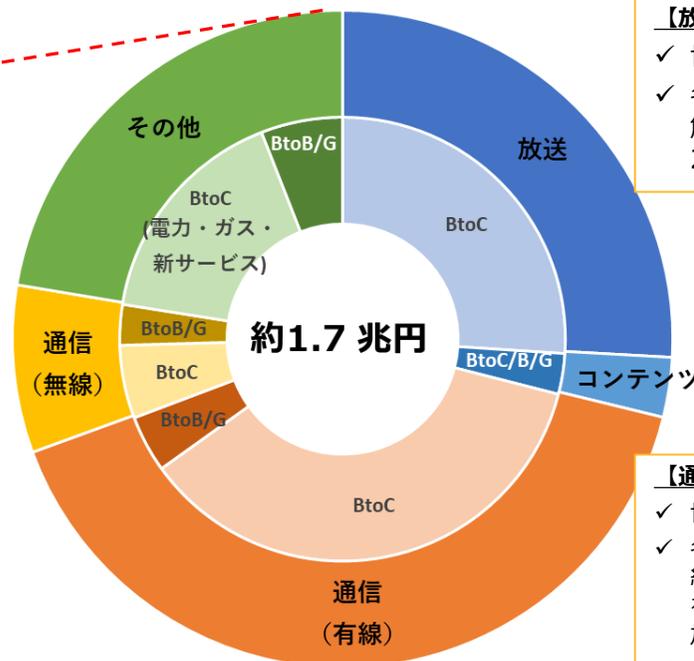
- ✓ 世帯数全体の自然減
- ✓ 各種バンドル戦略で解約率・獲得率は2020年を維持(成長トレンドは加味)
- ✓ 固定電話はシュリンク
- ✓ BtoB/Gでストレッチ



※業界レポート2020より



※業界レポート2024より



BtoB/Gの取扱高：約2,600億円